

会 報

第30号

平成14年度



東京都立高等学校教頭会

会報第30号の発刊によせて

会長 町田 昶

平成14年度教頭会の会報30号の発刊にあたり、本会の1年間の活動を記したものであり、永く記録として保存され会員諸氏の活用を期待しております。

本年度は、教員の研修について、継続研修が1年間延期され、長期休業期間中の4時間研修・4時間を越える研修（グループ研修）が実施され、研修と出勤の確認をするため、研修に関する諸帳簿等の整備が大きな課題となりました。

主幹選考が実施され、平成15年度から主幹が発令され各校に配置されます。教頭は、主幹と共に学校運営を行うことになるので、主幹の直接の上司として良好な人間関係を維持していくことが重要であり、主幹を生かすも殺すも教頭しだいです。主幹の活用の重要性を認識し、都立高校改革に全力で取り組んでほしいと考えています。

平成15年度の入学選抜を迎え、学区が無くなり、新しい制度での推薦入試、一般入試（分割前期募集）、分割後期募集、二次募集等が実施されます。

長年続いてきた講師制度の改定が行われ、現任講師と56以降講師の区別が無くなり、名簿登載講師となりました。講師時数の査定、学区調整会、講師の任用事務等大変いそがしい時期を迎えております。

さらに、卒業式の国旗・国歌の問題や年間行事予定・教育課程届の作成、時間割の編成等、年度末の過密な日程の中、ミスの許されない厳しい仕事ですが、教頭が明るく元気よく活気のある高校を作って行こうではありませんか。

次年度の教頭連絡会の予定もほぼ確定し、全体会が年2回程度行われ、教頭連絡会の前に学科教頭会を行い、教頭連絡会後に学区教頭会を行う予定であります。

最後になりますが、教頭会発展のためにいつも温かいご指導、ご支援をいただいております教育委員会、校長協会、事務長会、教頭会事務局の方々に感謝申し上げます。

目 次

会長あいさつ（発刊によせて）

1. 教頭会のあゆみ		5. 学科別支部教頭会報告	
1. 本会創設以前の教頭会 ……	1	1. 普通科教頭会 ……	41
2. 会員数と会費の変遷 ……	3	2. 工業科教頭会 ……	42
3. 本会のあゆみ ……	6	3. 商業科教頭会 ……	44
4. 本会のあゆみ一覧 ……	9	4. 農業科教頭会 ……	45
2. 総務部会報告		6. 研究部会報告	
1. 本部の活動 ……	13	1. 管理運営研究部会 ……	47
2. 平成14年度予算 ……	14	第1委員会（学校管理関係） ……	48
3. 平成14年度事業報告 ……	16	第2委員会（職務、待遇関係） ……	49
4. 総会・40周年記念行事 ……	17	2. 高校教育研究部会 ……	51
5. 幹事会 ……	18	第1委員会（教育課程関係） ……	52
6. 総務部会 ……	22	第2委員会（教育対策関係） ……	53
7. 特別委員会 ……	26	3. 生徒指導研究部会 ……	54
3. 主な活動報告		第1委員会（生活指導関係） ……	55
1. 全国高等学校教頭会 ……	27	第2委員会（教科外活動関係） ……	56
2. 都立高校教頭研究協議会 ……	28	7. 会員異動	
4. 学区別支部教頭会報告		会員異動 ……	58
1. 第1学区教頭会 ……	29	8. 編集後記 ……	61
2. 第2学区教頭会 ……	30		
3. 第3学区教頭会 ……	31		
4. 第4学区教頭会 ……	32		
5. 第5学区教頭会 ……	34		
6. 第6学区教頭会 ……	35		
7. 第7学区教頭会 ……	36		
8. 第8学区教頭会 ……	37		
9. 第9学区教頭会 ……	38		
10. 第10学区教頭会 ……	39		
11. 島しょ地区教頭会 ……	40		

1. 教頭会のあゆみ

1. 本会創立以前の教頭会

明治19年10月勅令65号「尋常師範学校官制」第3条「教頭ハ教諭中ヨリ之ニ兼任シ、学校長ノ監督ニ属シ、教務ヲ整理シ教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル」とあり、また昭和16年3月勅令第148号「国民学校令」で「学校長及び教頭ハ其ノ学校の訓導ノ中ヨリ之ヲ補ス、教頭ハ学校長ヲ補佐シ校務ヲ掌ル」と定めるなど、戦前は教頭職制度があった。その当時の教育制度は5年制の中学校・高等女学校・工業学校・商業学校・農業学校などに分かれていた。戦前の教頭会は関係の深い学校同志が校務連絡と親睦のため集まる程度の会はあったが教頭会としての組織化されたものはなかった。

戦後の昭和22年3月法律第26号「学校教育法」公布により、教頭職は法制的になくなったので、校長の命ずる校務分掌の一部とし名ばかりの教頭が存在していた。昭和30年都教委は、「校務主任」の制度を設け、教頭全員に「校務主任」の辞令を渡し、12月1日付で任命した。このようなことから普・工・商・農などの教頭会は規約をもうけるなどし、各々「校務主任会」を組

織、やや教頭会的活動を行うようになった。その後昭和38年に全都の高校で組織する本会を創設した。本会が創立する以前の教頭会の歴史は次の通りである。（昭和49年2月内山調）

東教会（普通科）

昭和12年創立。昭和38年本会の創立により、昭和38年発展的解散

昭和12年春、府立第7高女に府立高女全校の教頭10名が集り親睦と校務連絡を目的に会を創設した（故松岡忍岡高女教頭の日記より）。昭和18年に都政がしかれ、府立高女も市立高女も全部都立高女と呼ばれるようになった。そのとき全都立高等女学校25校が忍岡高女に集り総会を開き組織を強化した。その後、戦争のため会は開けなかったが、昭和24年より開けるようになり、昭和30年頃より男子系高校の入会も増加し会は発展してきた。昭和32年に都立高校校務主任会が発足したがこれと並行して会は存続、昭和38年都立高校教頭会が創立したので昭和39年1月23日、南多摩高校で最後の総会を開き発展的解散した。

年 度	昭12年	昭13年	昭18校	昭 19 年	昭 24 年	昭 25 年
会 員 数	10校	10校	25校	25校	31校	35校
会 費	—	—	—	戦争のため昭和24年まで中断する	300円	300円
当番幹事校と会場	府立第7高女	昭14~17年 不明	忍 岡		駒場、富士、忍岡、足立	竹台、井草、千歳、鷺宮

昭和26年	昭和27年	昭28年	昭29年	昭30年	昭31年	昭32年
35校	35校	35校	38校	40校	42校	46校
300円	300円	300円	300円	300円	300円	300円
八潮、市谷、紅葉川、明正	京橋、本所、台東、三田	不 明	不 明	豊島、玉川、桜町、深川	雪谷、武蔵、北野、大崎	南多摩、目黒、神代、江北

昭33年	昭34年	昭35年	昭36年	昭37年	昭38年	昭39年
48校	50校	50校	60校	63校	63校	63校
300円	300円	300円	300円	300円	300円	300円
千歳丘、一橋、足立、荻窪	白鷗、南多摩、富士森、府中	竹早、本所、広尾、青山	志村、板橋、北多摩	不 明	不 明	不 明

会合は毎年5回を目標にし、4回は学校、1回は外部の会場を選んだ。

（昭和49年2月神藤調、昭和50年神藤訂正）

東京都立高等学校校務主任会（普通科）

昭和32年創立。昭和38年本会創立全校入会、その後普通科高校教頭会支部となる。

昭和32年1月17日駒場高校で普通科高校が集り、各学区から幹事を出し、その中から代表幹事をめきる組織で創立総会を行った。目的は親

睦と校務連絡が主なもので、第1回の総会と年2～3回の幹事会を行う程度の会であった。組織は普通科高校全体であるが、大島・三宅・八丈の島関係は未加入、昭和35年府中高、昭和38年は深沢・小岩・小平・南・大山の5校新設入会とし、86校となる。

年 度	昭 32 年	昭 33 年	昭 34 年	昭 35 年	昭 36 年	昭 37 年
会 員 数	76校	76校	76校	77校	77校	77校
会 費	500円	500円	500円	500円	500円	500円
代 表 幹 事	鈴木 菊雄 (駒 場)	森本久次郎 (日比谷)	岸田 文男 (西)	渡辺 元 (板 橋)	細沼 清 (白 鷗)	田代清三郎 (両 国)

(昭和49年2月神藤、内山調、昭和50年2月神藤、内山訂正)

東京都立工業高等学校教頭会

昭和25年創立。昭和38年本会創立全校入会、その後工業高校教頭会支部となる。

はじめは校長会主催の教頭をねぎらう親睦の会であったが、昭和31年に校務主任会と名称を変え、会則を設けるなどし、会長と幹事3名で運営するようになり、昭和38年には幹事長と副

幹事長、幹事4名に変更され現在に至っている。組織は工業高校全校であるが、昭和31年共同実習所入会、昭和34年一橋工と羽田工が合併、同年烏山工新設、昭和38年は練馬・荒川・足立・葛西・田無・多摩・砧・杉並・町田・府中の新設10校、同年航空工廃止し、共同実習所を含めて29校となる。

年 度	昭25年	昭26年	昭27年	昭28年	昭29年	昭30年	昭31年	昭32年	昭33年	昭34年
会員数	19校	19校	19校	19校	19校	19校	20校	20校	20校	20校
会 費	会場校の負担から必要に応じ徴収するようになる						500円	500円	500円	500円
備 考	校長会主催の会から教頭会に発展						都立工業高校校務主任会			

東京都立商業高等学校教頭会

創立は昭和26年頃らしい。昭和38年本会創立時に全校入会。その後商業高校教頭会支部となる。

はじめのうちは記録がないので不明であるが、

昭35年	昭36年	昭37年	(昭和19年2月内山・遊佐調、昭和50年2月内山・元田訂正)
20校	20校	20校	
500円	500円	500円	
都立工業高校校務主任会			

昭和32年に組織を強化し、幹事長制度を設け、年に数回の会合を行っている。

その後、昭和38年に四谷・赤羽の2校新設入会し、25校となった。

年 度	昭 32 年	昭 33 年	昭 34 年	昭 35 年	昭 36 年	昭 37 年
会員数	不			明		25校
会 費	不			明		1,000円
備 考	都立商業高校校務主任会					

(昭和49年2月八田調)

東京都立農業高等学校教頭会

昭和24年創立。昭和38年本会創立時に全校入会。その後農業高校教頭会支部となる。

はじめは記録がないので不明であるが、教頭の集まる会はあった。昭和30年に会則を設け、

持ち廻り幹事で運営していたが、昭和36年に幹事を2名に強化し、毎年6回の会合を行っている。会員数は昭和32年に農産高が独立、昭和36年大島・三宅・八丈の農業科3校入会、昭和40年瑞穂農芸高独立し、9校となる。

年 度	昭24年	昭25年	昭26年	昭27年	昭28年	昭29年	昭30年	昭31年	昭32年	昭33年
会員数	4校	4校	4校	4校	4校	4校	4校	4校	4校	5校
会 費	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	500円	500円	500円	500円
備 考	教頭の集まる会はあったが細部不明									

2. 会員数と会費の変遷

本会創立から現在まで、学校数・会員数・会費・新設校のあゆみを次の表にまとめた。

<変遷表について>

1. 本校が設立した昭和38年度は新設17校と廃校1校があるので125校から140校となった。
2. 昭和38年～昭和45年は普+商・普+農・本会+分校・共同実習所など各々1校として入会、会員数は実際の学校数より多い。
3. 昭和38年大森高馬込分校（定）は南高として新設、同年代々木高（定）は3部制となり入会。

昭34年	昭35年	昭36年	昭37年
5校	5校	8校	8校
500円	500円	500円	500円
都立農業高校校務主任会			

（昭和49年2月池田調、昭和50年2月山本訂正）

4. 昭和40年浅草高（定）は東高（全）に変わり新設、昭和46年大島高差木地分校は大島南校に変わり新設。
5. 昭和44年秋川高、昭和48年大島南高に舎監長制度が新設され入会、昭和48年だけ世田谷工高は2人教頭であった。（昭和52年2月神藤・内山調、その後追加）

〔会員数と会費の一覧表〕

（昭和38年以降）

年 度	学 校 数	会 員 数 (人)					年 会 費 (円)				新 設 高 校 名 ※ 募集停止校名 ○ 転科した高校名	1. 1校で2科や2名教頭などの入会校名 2. 分校・共同実習所などの入会校名
		普 通	工 業	商 業	農 業	計	都 費	私 費	個 人	計		
昭和38年	140校	86人	28人	25人	8人	148人	—	500円	—	500円	深沢大山 荒川工 練馬工 田無工 府中工 小岩 四谷商 杉並工 足立工 多摩工 小平 赤羽商 砧 工 葛西工 町田工 (計17校)	杉並共実 北多摩 三宅 代々木 五日市 八丈 赤坂 大島 (計8)
" 39	141	88	30	25	8	151	—	500	—	500	練馬 (計1校)	杉並共実 北多摩 代々木 五日市 赤坂 浅草(定) 大島 三宅 (計10)
" 40	144	90	30	24	9	153	—	500	—	500	秋川 久留米 東 瑞穂農芸 (計4校)	杉並共実 北多摩 代々木 五日市 大島 三宅 八丈 (計9)
" 41	145	91	30	20	6	147	—	500	—	500	日野 (計1校)	杉並共実 江東共実 (計2)
" 42	146	92	29	20	6	147	—	1,000	—	1,000	羽田 (計1校)	杉並共実 (計1)

年 度	学 校 数	会 員 数 (人)					年 会 費 (円)				新 設 高 校 名 ※ 募集停止校名 ○ 転科した高校名	1. 1校で2科や2名教頭などの入 会校名 2. 分校・共同実習所などの入会校 名	
		普 通	工 業	商 業	農 業	計	都 費	私 費	個 人	計			
昭和 43年	147	94	29	20	6	149	—	1,000	—	1,000	東村山 (計1校)	秋川(舎監長) 杉並共実(計2)	
"	44	149	97	28	20	6	151	—	1,000	—	1,000	国分寺 小笠原 (計2校)	秋川(舎監長) 差木地分校(大島) (計2)
"	45	149	97	28	20	6	151	1,000	—	—	1,000	— (なし)	前年に同じ (計2)
"	46	155	102	28	20	6	156	1,000	—	—	1,000	淵江 福生 新島 東大和 忠生 大島南 (計6校)	秋川(舎監長) (計1)
"	47	161	108	28	20	6	162	1,000	—	—	1,000	片倉 府中東 神津 永山 保谷 芸術 (計6校)	前年に同じ (計1)
"	48	164	112	29	20	6	167	9,000	—	—	9,000	葛西南 狛江 清瀬 (計3校)	秋川(舎監長) 大島南(舎監長) 世田谷工(2人制) (計3)
"	49	168	116	28	20	6	170	9,000	—	—	9,000	高島 足立西 調布北 久留米西 (計4校)	秋川(舎監長) 大島南(舎監長) (計2)
"	50	172	120	28	20	6	174	9,000	—	2,000	11,000	水元 府中西 武蔵村山 野津田 (計4校)	前年に同じ (計2)
"	51	177	125	28	20	6	179	9,000	—	5,000	14,000	光丘 八王子東 青梅東 足立東 武蔵村山東 (計5校)	前年に同じ (計2)
"	52	184	132	28	20	6	186	9,000	—	5,000	14,000	青井 調布南 稲城 羽村 篠崎 小平西 秋留台 (計7校)	前年に同じ (計2)
"	53	191	139	28	20	6	193	9,000	—	6,000	15,000	蒲田 八王子北 昭島 大泉北 成瀬 城東 清瀬東 (計7校)	前年に同じ (計2)
"	54	196	144	28	20	6	198	9,000	—	6,000	15,000	永福 足立新田 南野 砂川 武蔵野北 (計5校)	前年に同じ (計2)
"	55	202	150	28	20	6	204	9,000	—	6,000	15,000	大森東 大泉学園 館 小川 日野台 小金井北 (計6校)	前年に同じ (計2)
"	56	202	152	28	20	6	206	9,000	—	6,000	15,000	田柄 松ヶ谷 (計2校)	秋川(舎監長) 大島南(舎監長) (計2)
"	57	204	152	28	20	6	206	9,000	—	6,000	15,000	— (なし)	前年に同じ (計2)
"	58	207	155	28	20	6	209	9,000	—	6,000	15,000	小平南 田無 山崎 (計3校)	前年に同じ (計2)
"	59	209	157	28	20	6	211	9,000	—	6,000	15,000	東大和南 東村山西 (計2校)	前年に同じ (計2)
"	60	210	159	28	20	6	213	11,300	—	6,000	15,000	南平 (計1校)	秋川(舎監長) 大島南(舎監長) 紅葉川中央校舎 (計3)
"	61	210	160	28	20	6	214	11,300	—	6,000	17,300	— (なし)	秋川(舎監長) 大島南(舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 (計4)

年 度	学 校 数	会 員 数 (人)					年 会 費 (円)				新 設 高 校 名 ※ 募集停止校名 ○ 転科した高校名	1. 1校で2科や2名教頭などの入 会校名 2. 分校・共同実習所などの入会校 名
		普 通	工 業	商 業	農 業	計	都 費	私 費	個 人	計		
昭和 62年	210	160	28	20	6	214	11,300	—	6,000	17,300	— (な し)	前年に同じ (計4)
” 63	211	162	28	20	6	216	11,300	—	8,000	19,300	八王子高陵 (計1校)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 国際 (開設) (計5)
平成 元	212	162	28	20	6	216	11,300	—	8,000	19,300	国 際 ※赤城台 (計1校)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 (計4)
” 2	213	163	28	21	6	218	11,300	—	8,000	19,300	単位制 (計1校)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 単位制 (普・商) (計5)
” 3	212	162	28	21	6	217	11,300	—	8,000	19,300	単位制を新宿山吹と改称	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 新宿山吹 (普・商) (計5)
” 4	212	160	28	23	6	217	11,300	—	10,000	21,300	※紅葉川中央校舎 ○赤 坂 (普→商) ○五日市 (普→商)	前年に同じ (計5)
” 5	212	160	28	23	6	217	11,300	—	10,000	21,300	— (な し)	前年に同じ (計5)
” 6	213	160	28	23	6	217	11,300	—	10,000	21,300	(公立学校開設)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 隅田川堤校舎、新宿山吹 (普・商) (計4)
” 7	214	161	28	23	6	218	11,300	—	10,000	21,300	※北 京橋、京橋南 飛鳥開設	前年に同じ (計4)
” 8	214	161	28	23	6	218	11,300	—	10,000	21,300	晴海総合高校開設 (計1校)	前年に同じ (計4)
” 9	211	159	28	22	6	215	11,300	—	10,000	21,300	— (な し)	前年に同じ (計4)
” 10	211	159	28	22	6	215	11,300	—	10,000	21,300	※江東工	前年に同じ (計4)
” 11	211	158	28	22	6	214	11,300	—	10,000	21,300	—	新宿山吹2名から1名となる
” 12	212	167	33	21	9	230	11,300	—	10,000	21,300	桐ヶ丘南工開設 ※羽田、城北	教頭複数配置校大幅増 (計18)
” 13	208	169	40	21	9	239	11,300	—	10,000	21,300	※明 正、墨田川堤、 桜水商、牛込商、 清瀬東 (英語コース) ○町田工 (機械・電気情報・ 工業化学→総合情報) 墨田工 (自動車科新設)	教頭複数配置校31校 (計13)
” 14	207	170	39	20	9	238	11,300	—	10,000	21,300	つばさ総合 ※城南、大森東、永福、 大泉北、館、武蔵村山東、 稲城、八王子高陵、 池袋商、港工業、 大泉学園 (国際教養コース)	同 上 (計31)

3. 本会のあゆみ

昭和32年度 12月：文部省は「学校教育法施行規則」を改正、第22条に教頭職を位置づけた。

昭和35年度 4月：都教委は「東京都公立学校の管理運営に関する規則」に教頭職を設け、「校務主任」を「教頭」に改め、辞令を渡した。

4月：文部省は教頭を「管理または監督の地位にある管理職手当支給対象」に入れた。都教委は教頭を管理職と位置づけ、はじめて管理職手当7%を支給した。

昭和37年度 38年1月：全国高等学校教頭会は、都立両国高校で創立総会を開催した。

昭和38年度 6月20日：都立高校校務主任会（普通科教頭会）と各職業高校校務主任会（各職業科教頭会）が合同し、「東京都立高等学校教頭会」が誕生した。当時の会員数は140校148人であった。

昭和39年度 40年1月：「ILO78号条約批准にともなう国内法の改正」により「人事院規則17-0」を改正した。都教委は管理職手当を8%に増額した。

昭和41年度 7月9日：文部省は教頭を正式に管理職の範囲に指定した。

昭和42年度 6月：都教委は教頭の管理職手当を10%に増額した。

昭和45年度：都教委は教頭の管理職手当を10%から15%に増額、教頭会に教育研究団体会費（都費）1校あたり1,000円の割で補助された。本会はこの年「全国高等学校教頭会」に正式加入し、本会会則の一部改正により、毎年交代制の代表幹事を、継続できる会長制に改め、組織を強化した。この年から東京都立高等学校教頭研究協議会が箱根三昧荘にて1泊2日で始まった。翌年からは2泊3日の研究協議会になった。

昭和46年度 5月：「教育職員の給与等に関する特別措置法」の公布があり、教諭に4%の教職調整額が支給された。

47年1月：都教委は教頭が教諭なので、管理職手当を15%から13%に減額し

た。

昭和47年度 「教頭職の法制化」を望む世論の高まりと共に教頭会意識も強まり、「親睦会的体質」から「活動できる体質」へ改善に着手した。役員組織、学区別・学科別支部教頭会、研究部会組織、継続活動のできる独立した事務局、これらの運営に必要な資金等を調査研究し、翌年度から3年計画で実施することにした。

昭和48年度 会則を変更し、活動のための細則を新設した。また、全国高等学校教頭会と協力し、事務所を新設した。本会は新役員組織と活動組織を新しくスタートさせ、本会の基礎となる大改革に着手した。都教委のご理解により、教育研究団体会費（都費）を1校1,000から9,000円に増額された。そのお陰で研究集録・会報の増刊号が刊行できた。

49年2月25日：法律第2号「教員の人材確保に関する特別措置法」の公布があり、教頭職の法制化を望む世論の高まりと共に教頭会の活動に期待をよせる声が高まった。本会は全国高等学校教頭会に協力し、教頭職法制化と教頭職1等級格付に全力をあげ活動した。

昭和49年度 6月1日：法律第70号「学校教育法の一部を改正する法律」の公布により、教頭職が法制化されたので、都教委は10月1日教頭に「教頭職」を命ずる辞令伝達式を挙行了した。

50年3月1日：法律第9号「一般職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律」が公布される。（昭和49年神藤、内山調）

昭和50年度 4月1日：都教委は教頭職の75%を1等級に昇格発令した。これで「3年計画」の3年目、永年の念願が法制上完成した。本会の活動のため、会則の一部改正と各種内規を設け、活動資金1名宛5,000円（個人負担）の特別会費を10月に臨時総会を開き決定した。「活動できる体質」改善3年計画は、全員一致協力のもとめでたく完了した。

12月：文部省は主任制度化のため学校教育法施行規則の改訂を公布した。

昭和51年度：石油ショックで、東京都立高等学校教頭研究協議会は宿泊研修を中止し、2日の日程で、都内実施となった。

昭和53年度 6月8日：総会で、特別会費5,000円から6,000円に改正された。

昭和55年度 5月22日：法律第57号改正「教頭定数法」が施行され、教諭定数内で扱われていた教頭は、正式定数と定められた。その給与は地方交付税制度により、保証が受けられる。

5月：事務局は渋谷区宇田川のアパートから、同区同玄坂の島田ビル4階へ移転した。

7月15日：東京都条例第71号改正給与条例の公布と、東京都教育委員会規則第29号「昇給等に関する規則」の改正により、本年4月1日付で、校長は特1等級、教頭は1等級に全員格付された。これは昭和52年12月21日「給与法の一部改正」の公布によるものである。

昭和57年度：創立20周年を迎え、3月4日「創立20周年記念号」を発行した。

昭和59年度 8月：臨時教育審議会設置法が公布された。

昭和60年度 6月13日：総会で教育研究団体会費（都費）1校あたり9,000円から11,300円へ改正され、通常会費が増額された。そのお陰で全日制・定時制合同の東京都立高等学校教頭研究協議会「研究協議会報告」創刊号が刊行できた。

昭和62年度：臨時教育審議会第3次答申（4月）と最終答申（8月）があった。これらに呼応して、研究部が中心となり、新しい時代の高校教育の改善と充実に務めていくことにした。

昭和63年度 5月：文部省は、初任者研修法を公布した。

6月9日：総会で、特別会費6,000円から8,000円に改正された。

平成2年度 9月：都教委は、校長・教頭・指導主事の任用制度を改正した。

3月1日：文部省は校長・教頭・永年勤続教諭に、期末・勤勉手当の傾斜配分加算率を通知した。

平成3年度 12月：文部省は生徒数急減のため、学級定員を45～40に学級編成基準を弾力化した。

平成4年度 6月23日：本会の30周年記念式典を挙行し、総会で、特別会費8,000円から10,000円に改正された。

9月：学校週5日制を目指し、月1回土曜日が休業日になる。これに対応するよう総務部が中心となり、各校の校内態勢整備に務めてきた。

（平成4年 赤津改訂）

平成6年度 4月：普通科等の学級編制が1学級40人となり、入学選抜制度が、グループ選抜から各学校単独選抜となった。この制度は平成6年度の入学者から適用された。また、今年度から、高等学校学習指導要領が改定され、各校新教育課程の実施が始まった。本教頭会では、平成元年度から研究部が中心になって、これに伴う研究を継続してきた。

6月：平成8年7月に行われる全国大会（東京大会）を主管するため、本会は企画委員会を発足させた。

12月：都教委は、全都立学校の校長及び教頭に、職務に関する目標と成果及び職務に関する希望を自己申告させ、それらを参考にして今年12月の期末手当から、勤勉手当へ成績率を導入し経過措置として人事管理の適正を図った。

平成7年度 5月：全国大会（東京大会）準備委員会が総務部を母体にして結成され、11月に団結式が行われた。

6月：都教委は教頭問題等検討委員会を設立し、教頭の職務・任用制度・表彰制度・再雇用制度等について検討を始めた。本会からは川島副会長がその担当となった。（平成7年 奥井追加）

平成8年度 4月・5月：「補欠募集要項」、「全日制間の転学」についての改正が行われた。

7月～11月：「教頭問題検討委員会報告」（平成8年3月）を受けて「校長及び教頭の任用に関する基準及び東京都教育委員会表彰実施要項の一部改正」（7月）、「教頭職務の明確化のための

規定整備について」（10月）、「校長・教頭業務実態調査について」（11月）、「東京都立学校事案決定規程の制定」（1月）等が相次いで出された。

7月23・24日：全国高等学校教頭会総会・研究協議大会が本会の主管で開催された。

10月：本会の研究部活動活性化に向けての「アンケート調査」が行われた。

1月25日：「これからの都立高校の在り方」についての答申が公表された。

平成9年度 6月：第15期中央教育審議会が（21世紀を展望したわが国の教育の在り方について）、審議のまとめを答申した。

7月：教育職員養成審議会第1次答申が提出された。

8月：教育改革プログラムの主な改訂点が公表された。

9月：都立高校の予算について、検討報告書（案）が提案された。

10月：都立高校改革推進計画の概要が公表され、向う10年間の長期計画が具体化されることになった。

本年度の特徴的な活動として、都教委（指導部）との協議（2回）、定通・事務長会との話し合いが持たれた。

3月：「都立学校あり方検討委員会報告書」が答申された。

平成10年度 6月：学校教育法の一部改正により、公立の中・高一貫校の設置が可能になった。都立高校では都立大学附属高校、三宅高校が発足する予定である。

7月：「東京都公立学校の管理運営に関する規則」の一部改正が行われた。

12月：東京都「教員の人事考課に関する研究会」より中間まとめが公表された。

3月：「高等学校学習指導要領」が公布された。

教頭会は都教委と本部役員との連絡会を2回開催し、諸課題について情報交換を行い、全教頭に周知徹底に努めた。

平成11年度 10月：都立高校改革・二次実施計画により、全日制23校、定時制17校が統合または再編成計画の対象として発表さ

れた。

12月：教員人事考課制度につき検討委員会報告が出され、平成12年度より実施されることとなった。

平成12年度 4月：教頭複数配置校が複数学科、工業・農業学科、単位制その他の高校を中心に15校増加された。従来からの舎監・分校を含め計18名となった。

同月：教員人事考課制度発足。

9月：全定教頭研究協議会が教育庁主催から全定教頭会の共催に変更された。教育予算削減等によるものであり、この会の意義については認識に変化なく引き続き教育庁の指導・支援を得ながら運営すべきことが確認された。

平成13年度 4月：教頭複数配置校が31校になる。都教委主催の教頭連絡会が発足。教頭会への出席のサービスの取り扱いが、職免へと変更。教頭の管理職手当が15%になる。

6月：学校運営連絡協議会が全都で実施される。

10月：学校運営組織に「主幹」の設置が決定され、実施は平成15年度からとなる。

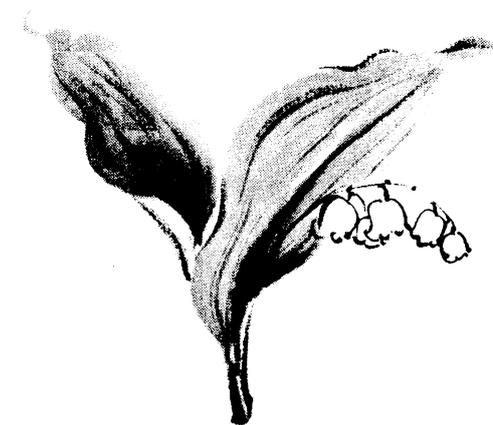
平成14年度 4月：管理職降格制度の導入。

10月：都立学校改革推進計画、新たな実施計画の策定（15-18年）

11月：主幹選考の実施。

12月：自律経営推進予算の導入。

1月：入試学区の廃止。



4. 本会のあゆみ一覧

本会運営は、昭和38年創立当初は幹事長制度、45年か ― 長制度、48年度には役員組織と部会組織の規定を設け、現在に至っている。

年 度	幹 事 長	総 会	刊 行 物
昭和38	内山（立 川）	創立総会、白鷗（－）	会員名簿（13P）
” 39	中馬（九 段）	総会、日比谷（－）	” （13P）
” 40	志村（玉 川）	” 白鷗（－）	” （13P）私費軽減（10P）
” 41	小笹（富 士）	” 教育会館（－）	” （13P）
” 42	鈴木（向 丘）	” 私学会館（80名）	” （13P）年間行事状況（4P）
” 43	岸野（足 立）	” 精養軒（90名）	” （13P）会報（4P）
” 44	池田（小松川）	” ”（90名）	” （13P）”（4P）
” 45	青木（北 園）	” ”（90名）	” （13P）調査（5P）
			高校生徒指導研究協議会発表要旨（都教委編）不明 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編）不明
		全国高等学校教頭会に東京都全員入会	
” 46	青木（北 園）	総会 出版クラブ（90名）	会員名簿（13P） 高校生徒指導研究協議会発表要旨（都教委編）33P 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編）40P

年度	○ 会 長 副会長	事務局長 次 長	総 会 総 務 部 会	研 究 部 部員数（部長名）	刊 行 物
昭和 47	○神 藤（桜 町） 波多野（江東商）	な し	総会、青山会館（100名） 臨時総会、私学会館（80名） 常任幹事会 5回 体質改善計画立案と実施準備	な し 高校生徒指導研究協議会発表要旨（都教委編） 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編）	会員名簿 15P 教頭勤務実態 10P 49P 40P
” 48	○若 林（東） 波多野（江東商） 内 山（烏山工）	○神 藤	総会、青山会館（110名） 臨時総会（90名） 総務部会14名 5回 「体質改善3年計画」初年度着手 全国教頭会事務局内に本会事務局 を設置	管理研 25名（安 部） 高校研 24名（西 村） 生徒研 23名（古 賀） 高校生徒指導研究協議会発表要旨（都教委編） 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編）	会員名簿 16P 会報創刊号 40P 研究集録創刊号 43P 67P 不明
” 46	○内 山（烏山工） 波多野（江東商） 安 部（北多摩）	○神 藤	総会、青山会館（100名） 総務部会18名 6回 全国大会運営委員会（22名） 全国大会（九段会館・都市セカ-）、	管理研 28名（吉 野） 高校研 24名（長 里） 生徒研 22名（古 賀） 文部大臣特別出席	会員名簿 18P 会報第2号 58P 教頭職に関する調査・研究 25P 高校生徒指導研究協議会発表要旨（都教委編） 32P 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編） 48P 出席520名

年度	○ 会 長 副 会 長	事務局長 次 長	総 会 総 務 部 会	研 究 部 部員数 (部長名)	刊 行 物
昭和 50	○内 山 (烏山工) 千 野 (井 草) 石 坂 (小石川)	○神 藤	総会、出版クラブ (130名) 臨時総会、" (85名) 総務部会19名 5回 教頭会「体質改善3年計画」完了	管理研 28名 (吉 野) 高校研 26名 (長 里) 生徒研 22名 (小 林) 高校教頭研究協議会発表要旨 (都教委編) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 18P 会報第3号 49P 研究集録第2号 72P 28P 44P
" 51	○千 野 (井 草) 西 村 (千 歳) 吉 野 (西)	○神 藤 内 山	総会、青山会館 (125名) 総務部会29名 5回	管理研 29名 (金 井) 高校研 30名 (長 里) 生徒研 37名 (小 林) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 19P 会報第4号 69P 研究集録第3号 75P 校長選考方法調査 5P 54P
" 52	○千 野 (井 草) 梅 本 (北 園) 伊 藤 (忍 岡)	○神 藤 内 山	総会、青山会館 (135名) 総務部会26名 5回 全国大会運営委員会 (79名) 全国大会 (国立教育会館・プレスセンター・サンケイ会館)	管理研 35名 (金 井) 高校研 39名 (山 崎) 生徒研 37名 (諏訪部) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 24P 会報第5号 75P 教頭研究協議会資料 (研究集録第4号兼全国大会資料)72P 44P 出席736名)
" 53	○青 木 (南) 乃 方 (目 黒) 大 畑 (広 尾)	○神 藤 内 山	総会、市ヶ谷会館 (136名) 総務部会29名 6回	管理研 48名 (杉 江) 高校研 51名 (浅 川) 生徒研 46名 (吉 田) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 24P 会報第6号 81P 研究集録第5号 33P 46P
" 54	○青 木 (南) 吉 田 (志 村) 安 西 (農 林)	○神 藤 内 山	総会、市ヶ谷会館 (142名) 総務部会29名 5回	管理研 50名 (高 橋) 高校研 73名 (佐 藤) 生徒研 52名 (大 滝) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 26P 会報第7号 83P 研究集録第6号 34P 63P
" 55	○川 島 (四谷南) 鮎 沢 (戸 山) 大 滝 (葛西南)	神 藤 代 ○内 山 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (161名) 総務部会30名 5回 全国大会準備委員会 (6名)	管理研 59名 (高 橋) 高校研 78名 (田 辺) 生徒研 54名 (松 井) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 26P 会報第8号 82P 研究集録第7号 42P 49P
" 56	○鮎 沢 (戸 山) 赤 津 (大 森) 桑 原 (板 橋)	○内 山 神 藤 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (175名) 総務部会32名 5回 全国大会運営委員会 (69名) 全国大会 (国立教育会館・サンケイ会館・農協ホール)	管理研 65名 (山 田) 高校研 72名 (鈴 木) 生徒研 66名 (白 井) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 28P 会報第9号 88P 研究集録 (全国大会資料兼) 42P 出席973名)
" 57	○赤 津 (大 森) 牛 込 (鷺 宮) 岡 田 (国 立)	○内 山 神 藤 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (176名) 総務部会36名 4回	管理研 65名 (山 田) 高校研 70名 (鈴 木) 生徒研 69名 (白 井) 創立20周年臨時号 (教頭の職務に関する研究特集) 高校教頭研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 26P 会報第10号 74P 研究集録第8号 66P 研究集録第9号 138P 53P

年度	○ 会 長 副 会 長	事務局長 次 長	総 会 総 務 部 会	研 究 部 部員数 (部長名)	刊 行 物
昭和 58	○大 森 (田園調布) 劍 持 (杉 並) 鈴 木 (三 商)	○内 山 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (174名) 総務部会33名 4回	管理研 66名 (高 橋) 高校研 71名 (大 山) 生徒研 72名 (永 井)	会員名簿 26P 会報第11号 78P 研究集録第10号 66P
" 59	○高 橋 (明 正) 飯 島 (蒲 田) 村 上 (練馬工)	○内 山 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (154名) 総務部会34名 4回 全国大会調査委員会 8名	管理研 66名 (高 橋) 高校研 75名 (篠 田) 生徒研 70名 (山 本)	会員名簿 26P 会報第12号 81P 研究集録第11号 67P
" 60	○山 本 (駒 場) 杉 内 (江 北) 清 水 (国分寺)	○内 山 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (164名) 総務部会34名 4回 全国大会準備委員会34名 4回	管理研 68名 (高 橋) 高校研 78名 (篠 田) 生徒研 67名 (岡 本)	会員名簿 26P 会報第13号 83P 研究集録第12号 77P 研究協議会報告創刊号 54P
" 61	○山 本 (駒 場) 杉 内 (江 北) 小 宮 (富士森)	○内 山 古 賀 赤 津	総会、市ヶ谷会館 (177名) 総務部会35名 4回 全国大会運営委員会64名 4回 全国大会 (国立教育会館、石垣ホール、ニッショウホール)	管理研 67名 (白 井) 高校研 72名 (篠 田) 生徒研 75名 (白 田)	会員名簿 26P 会報第14号 78P 研究集録第13号 74P 研究協議会報告第 2号 59P 出席 1,101名
" 62	○中 村 (竹 早) 白 川 (新 宿) 廣 瀬 (保 谷)	○古 賀 赤 津	総会、グランドヒル市ヶ谷(161名) 総務部会34名 4回	管理研 84名 (高 橋) 高校研 61名 (田 口) 生徒研 69名 (栗 田)	会員名簿 26P 会報第15号 74P 研究集録第14号 71P 研究協議会報告第 3号 63P
" 63	○白 川 (新 宿) 廣 瀬 (保 谷) 中村 (新) (千歳丘)	○古 賀 赤 津	総会、グランドヒル市ヶ谷(158名) 総務部会34名 4回	管理研 93名 (鈴 木) 高校研 61名 (田 口) 生徒研 62名 (栗 田)	会員名簿 26P 会報第16号 71P 研究集録第15号 69P 研究協議会報告第 4号 71P
平成 元	○崎 田 (柏 江) 奥 井 (豊 島) 小 峰 (練 馬)	○古 賀 赤 津	総会、グランドヒル市ヶ谷(160名) 総務部会34名 4回	管理研 86名 (木 村) 高校研 64名 (澤 井) 生徒研 68名 (福 島)	会員名簿 27P 会報第17号 73P 研究集録第16号 63P 研究協議会報告第 5号 68P
" 2	○奥 井 (豊 島) 木 村 (国分寺) 和 田 (光 丘)	○古 賀 赤 津	総会、グランドヒル市ヶ谷(151名) 総務部会34名 4回	管理研 85名 (井 上) 高校研 65名 (進 藤) 生徒研 68名 (延 藤)	会員名簿 27P 会報第18号 74P 研究集録第17号 68P 研究協議会報告第 6号 73P
" 3	○木 村 (国分寺) 和 田 (光 丘) 嶋 澤 (芝 商)	○赤 津 奥 井	総会、青山会館 (140名) 総務部会33名 4回	管理研 86名 (野 中) 高校研 64名 (大 室) 生徒研 67名 (原 口)	会員名簿 27P 会報第19号 73P 研究集録第18号 68P 研究協議会報告第 7号 69P
" 4	○高 橋 (小平南) 栗 林 (大泉学園) 井 上 (瑞穂農芸)	○赤 津 奥 井	総会、青山会館 (174名) 創立30周年記念式典・祝賀会 青山会館 (120名) 総務部会34名 4回	管理研 81名 (浦 野) 高校研 70名 (大 室) 生徒研 66名 (結 城) 創立30周年記念誌 編集委員会 (高 橋)	会員名簿 27P 会報第20号 78P 研究集録第19号 66P 研究協議会報告第 8号 55P 創立30周年記念誌 81P

年度	○ 会 長 副 会 長	事務局長 次 長	総 会 総 務 部 会	研 究 部 部 員 数 (部 長 名)	刊 行 物
平成 5	○高 橋 (小平南) 浦 野 (保 谷) 井 上 (瑞穂農芸)	○赤 津 奥 井	総会、星陵会館 (142名) 総務部会35名 4回	管理研 77名 (桑 原) 高校研 71名 (武 田) 生徒研 69名 (横 田) 平成5年1月、奥井	会員名簿 27P 会報第21号 67P 研究集録第20号 64P 研究協議会報告第9号 54P 昭和45～58年度について追加
" 6	○原 口 (南 野) 川 島 (富 士) 内 海 (墨田工)	○赤 津 奥 井	総会、星陵会館 (132名) 総務部会34名 4回 全国大会企画委員会 (12名) 2回	管理研 74名 (牛 島) 高校研 75名 (武 田) 生徒研 68名 (横 田)	会員名簿 27P 会報第22号 68P 研究集録第21号 64P 研究協議会報告第10号 53P
" 7	○原 口 (南 野) 川 島 (富 士) 白 鳥 (芝 商)	○赤 津 奥 井	総会、星陵会館 (130名) 総務部会35名 4回 全国大会企画委員会 (12名) 3回 全国大会準備委員会 (全員) 5回	管理研 73名 (新 妻) 高校研 75名 (森 本) 生徒研 70名 (横 田)	会員名簿 27P 会報第23号 68P 研究集録第22号 64P 研究協議会報告第11号 58P
" 8	○白 鳥 (芝 商) 安 盛 (小松川) 中 西 (井 草)	○奥 井 坪 井	総会、星陵会館 (137名) 総務部会35名 4回 全国大会企画委員会 (12名) 5回 全国大会運営委員会 (65名) 5回 全国大会 (国立教育会館、灘尾ホール、石垣ホール)	管理研 74名 (新 妻) 高校研 72名 (森 本) 生徒研 72名 (廣 見)	会員名簿 27P 会報第24号 82P 研究集録第23号 62P 研究協議会報告第12号 60P 出席 1,260名
" 9	○白 鳥 (芝 商) 安 盛 (小松川) 中 西 (井 草)	○奥 井 坪 井	総会、星陵会館 (152名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (松江市) 61名参加	管理研 64名 (新 妻) 高校研 74名 (東) 生徒研 77名 (小 泉)	会員名簿 24P 会報第25号 60P 研究集録第24号 54P 研究協議会報告第13号 54P
" 10	○東 (富 士) 山 口 (府 中) 松 尾 (農 業)	○奥 井 坪 井	総会、星陵会館 (144名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (秋田市) 82名参加	管理研 70名 (新 妻) 高校研 73名 (松尾川) 生徒研 72名 (中 村)	会員名簿 24P 会報第26号 58P 研究集録第25号 56P 研究協議会報告第14号 62P
" 11	○鈴 木 (深 川) 山 口 (府 中) 齋 藤 (中野工)	○奥 井 高 橋	総会、星陵会館 (169名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (高知市) 83名参加	管理研 72名 (新 妻) 高校研 71名 (小 林) 生徒研 71名 (大 澤)	会員名簿 24P 会報第27号 60P 研究集録第26号 49P 研究協議会報告第15号 56P
" 12	○山 口 (府 中) 上 林 (武蔵野北) 相 川 (三 商)	○奥 井 高 橋	総会、星陵会館 (108名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (横浜市) 85名参加	管理研 78名 (白 木) 高校研 73名 (小 林) 生徒研 79名 (橋 本)	会員名簿 24P 会報第28号 60P 研究集録第27号 48P 研究協議会報告第16号 55P
" 13	○相 川 (三 商) 矢 嶋 (足 立) 渡 邊 (向島工)	○高 橋 白 鳥	総会、星陵会館 (65名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (長崎市) 83名参加	管理研 78名 (平 山) 高校研 79名 (村 井) 生徒研 82名 (坂 本)	会員名簿 24P 会報第29号 56P 研究集録第28号 48P 研究協議会報告第17号 55P
" 14	○町 田 (保 谷) 坂 本 (小平南) 合 津 (武蔵工)	○高 橋 白 鳥	総会、フロラシオン青山 (59名) 創立40周年記念式典・祝賀会、 フロラシオン青山 (83名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (富山市) 82名参加	管理研 72名 (針 馬) 高校研 80名 (初 見) 生徒研 84名 (梶 野)	会員名簿 24P 会報第30号 62P 研究集録第29号 49P 研究協議会報告第18号 55P 創立40周年記念誌 88P

2. 総務部会報告

1. 本部の活動（総務部会・幹事会を除く）

会長 町田 昶

平成14年

- 4月12日（月） 平成14年度東京都立高等学校入学者選抜に関する懇談会
- 15日（月） 平成14年度日本教育会支部理事会（第1回）
- 30日（火） 会計監査・本部役員運営委員会
- 5月13日（月） 平成14年度日本教育会支部総会・講演会
- 23日（木） 創立40周年記念式典打合せ
- 27日（月） 平成14年度東京都教職員互助会総会
- 6月10日（月） 平成14年度東京都公立高等学校定通教育関係総会（定通教頭会含む）
- 13日（木） 平成14年度東京都立高等学校教頭会総会・研究協議会
- 13日（木） 平成14年度東京都立高等学校教頭会創立40周年記念式典・歓送迎会
平成14年度東京都教育公務員弘済会評議委員会
- 14日（金） 平成14年度東京都立高等学校教頭研究協議会運営役員会（第1回）
- 20日（木） 東京都教育管理職等連絡会理事会
- 22日（土） 平成14年度東京都公立高等学校PTA連合会総会
- 24日（月） 平成14年度日本教育会総会・研究協議会
- 27日（木） 平成14年度東京都立高等学校事務長会総会
- 7月13日（土） 東京都公立高等学校PTA連合会東京地区高等学校PTA連合会大会
- 22日（月） 平成14年度東京都立高等学校教頭研究協議会運営委員会（第2回）
- 23日（火） 東京都公立高等学校PTA連合会顧問・相談役・総務会懇談会①
- 24日（水）～26日（金） 平成14年度全国高等学校教頭会総会・研究協議会（富山市）
- 8月27日（火） 創立40周年記念誌編集委員会・全国研究集録編集会議
- 9月6日（金） 平成14年度東京都立高等学校教頭研究協議会運営委員会・研究協議会
- 10月4日（金） 会計監査・本部役員運営連絡会
- 9日（水） 東京都公立高等学校PTA連合会顧問・相談役・総務会懇談会②
- 11月12日（火）～13日（水） 平成14年度関東地区高等学校教頭研究協議会（さいたま市）
- 12月5日（木） 平成14年度東京都立高等学校教頭研究協議会運営委員会（第4回）
- 13日（金） 校長協会との連絡協議会

平成15年

- 1月8日（水） 東京都公立高等学校PTA連合会賀詞交歓会
- 2月1日（土） 東京都公立高等学校PTA連合会リーダー研修会
- 6日（木） 東京都公立高等学校PTA連合会顧問・相談役・総務会懇談会③
- 10日（月） 平成14年度東京都教職員互助会総会
- 3月28日（金） 平成14年度東京都立高等学校教頭会役員事務引継

2. 平成14年度予算

(1) 通常会計(都費)

平成14年4月1日
東京都立高等学校教頭会

収 入

項 目	前年度決算	予 算	備 考
通常会費	2,350,400	2,316,500	都費205校×11,300円
雑収入	218	218	預金利息
繰越金	115,879	184,794	平成13年度より
合 計	2,466,497	2,501,512	

支 出

項 目	前年度決算	予 算	備 考	
運 営 費	会議費	64,800	70,000	総務部会(4回)、幹事会(2回)等
	資料費	2,100	5,000	東京都学校名簿他
	旅 費	0	25,000	関東地区教頭協議会
	通信費	56,140	80,000	切手、はがき等
	印刷費	8,400	30,000	封筒、はがき印刷
	運搬送料費	31,657	60,000	全国・都刊行物配布等
	消耗品費	11,671	20,000	事務用品、帳簿等
	小 計	178,368	290,000	
事 業 費	学科別教頭会	317,000	314,000	普170人×1,000 工39人×2,000 商 20人×2,000 農 9人×2,800
	学區別教頭会	338,000	334,000	238人×1,400 端数切上げ
	研究部会	336,000	336,000	28,000×6×2回/年 "
	会員名簿	268,485	270,000	A 4. 650部 24P
	会報費	338,205	400,000	A 4. 650部 64P
	研究集録	268,275	280,000	A 4. 650部 54P
	研究協議会報告	237,370	240,000	A 4. 650部 68P
小 計	2,103,335	2,174,000		
予 備 費	0	37,512		
合 計	2,281,703	2,501,512		

(2) 特別会計(個人)

平成14年4月1日

東京都立高等学校教頭会

収 入

項 目	前年度決算	予 算	増 減	備 考
特 別 会 費	2,390,000	2,380,000	△ 10,000	238人×10,000
研究助成金	500,000	500,000	0	財・都教育公務員弘済会
負 担 金	30,000	30,000	0	私立高校6,000×5名
雑 収 入	61,797	500	△ 61,297	預金利息
繰 越 金	2,275,586	2,714,575	438,989	平成13年度より
合 計	5,257,383	5,625,075	367,692	

支 出

項	項 目	前年度決算	予 算	備 考
運 営 費	会 議 費	352,501	450,000	総務部会、幹事会、総会
	印 刷 費	150,465	200,000	総会資料等
	旅 費	10,000	180,000	全国大会1名、関東大会2名、本部役員交通費
	渉 外 費	61,435	110,000	講師謝礼、友好団体祝儀等
	全 国 会 費	144,735	150,000	私立高校+都立複数教頭校分
	運搬送料費	114,591	150,000	切手、宅配等送料(私立高を含む)
	資 料 費	2,700	20,000	教職員名簿等
	周年行事費	0	2,300,000	創立40周年基金、資料作成、次回大会基金その他
	食 料 費	6,699	20,000	本部費等
	雑 費	10,630	30,000	事務用品等
	小 計	853,756	3,610,000	
維 持 費	慶 弔 費	125,052	160,000	退職記念品(11名)、見舞金等
	人 件 費	807,000	840,000	全国分担金(実費1/10)
	家賃・光熱費	657,000	700,000	" (実費1/4)
小 計	1,589,052	1,700,000		
予 備 費	100,000	315,075		
合 計	2,542,808	5,625,075		

3. 平成14年度 事業報告

平成15年3月31日
東京都立高等学校教頭会

会 合

平成14年4月11日(木)	総務部会①	神楽坂エミール	出席	23名
5月9日(木)	幹事会①	神楽坂エミール	〃	31名
6月13日(木)	総会・創立40周年記念 式典・祝賀会	フロラシオン青山 懇談会	〃	83名 59名
7月4日(木)	総務部会②	神楽坂エミール	〃	21名
9月6日(金)	教頭研究協議会	総合技術教育センター／全員		
10月10日(金)	総務部会③	神楽坂エミール	出席	27名
11月7日(火)	幹事会②	神楽坂エミール	〃	26名
平成15年1月9日(木)	総務部会④	神楽坂エミール	〃	24名

総務部会(年4回)

1. 規約に従って会運営の原案作成及び協議、各学区、各学科・各研究部との連絡調整を行った。
2. 第41回全国高等学校教頭会、総会・研究協議大会(富山)実施の援助を行った。
3. 定期刊行物発行方針・企画・編集や都教育庁関係資料の会員への配布や研究等を行った。
4. 幹事会・総会等には教育委員会委員長、事務長会長を講師に招き講話を通して教頭職への理解を深めた。
5. 全国高等学校教頭会、各種友好団体との情報交換に努め、相互理解を深めた。

研究部会(定例日:原則として毎月第1木曜日)

1. 全会員(238名)で組織し、管理運営研究部会(第1委員会37名、第2委員会35名)、高校教育研究部会(第1委員会39名、第2委員会41名)、生徒指導研究部会(第1委員会47名、第2委員会37名)の3部会6委員会に分れ、おもに毎月第1木曜日に研究協議を行った。
2. 各委員会毎にテーマに設定し、その研究成果を「研究集録第29号」にまとめ、教育庁、校長・教頭(全・定)全員に配布をすると共に、各種友好団体に寄贈した。
3. 全定教頭会主催の教頭研究協議会に各委員会より各1論文、全国高等学校教頭会の全国大会(富山大会)に各研究部から1論文(管理研第1、高校研第1、生徒研第1)の研究発表を行った。
4. 研究部会・委員会の活性化を図るため、各委員会毎に学区1名の研究連絡委員を引き続き選出し、協議内容の充実と全会員への浸透を図るよう努めた。

その他

1. 都教委と役員と話し合う会 12月13日 石川都校長会長をはじめ校長会役員と教頭会本部役員との情報交換会を行った。
2. 第41回全国大会(於、富山市)は参加者1,072名中、東京は82名参加
3. 関東地区教頭研究協議会(埼玉主管) 全国会長のほか3名参加

刊行物

1. 会員名簿	(A4版)平成14年6月13日	24頁 650部	校長・全定教頭、都教委など
2. 総会資料	〃	6月13日 12頁 520部	校長・教頭・都教委など
3. 研究集録(29号)	〃	8月12日 56頁 650部	校長・全定教頭、都教委など
4. 研究協議会報告(18号)	〃	12月2日 55頁 650部	校長・全定教頭、都教委など
5. 創立40周年記念誌	〃	3月14日 88頁 900部	校長・全定教頭、都教委など
6. 会報(30号)	〃	3月28日 62頁 650部	校長・全定教頭・都教委など

4. 総会・創立40周年記念行事・歓送迎会

(1) 総会・研究協議会

日時 平成14年6月13日(木)

14時30分～15時20分

フロラシオン青山にて

開会……………副会長

会長あいさつ

議事

1. 平成13年度事業報告……………会長
2. 同 決算報告……………会計
3. 同 会計監査報告……………監査
4. 規約一部改正の件……………会長
5. 平成14年度役員選出……………会長
6. 同 部会組織……………会長
7. 全国教頭会役員推薦……………会長
8. 新旧役員あいさつ
9. 平成14年度事業計画案……………新会長
10. 同 予算(案)……………新会計
11. その他

閉会……………副会長

注・議事はいずれも異議なく承認

会則第2条の一部改正

第2条〔目的〕

1) 改正内容

現行「本会は教頭の職務および身分など共通の問題に関する調査・研究をし、会員相互の向上と親睦を図り、もって、東京都立高等学校教育の進展に資する。」

改正 上記の文から「と親睦」の3文字を削除する。

(2) 創立40周年記念式典

日時 平成14年6月13日(木)

15時40分～17時10分

フロラシオン青山にて

出席 来賓 賀澤恵二高指課長
石川和昭都高校長協会長
後藤和美事務長会長
吉野明弘済会事務局長
山本19代・崎田22代・奥井23代・
原口26代、鈴木29代、山口30代・
相川31代元会長

来賓 11名 退職者 4名 栄進者 1名

会員 65名 事務局 2名

計 83名

1. 開会の辞……………副会長
2. 実行委員長挨拶……………実行委員長
3. 会長挨拶……………会長
4. 来賓挨拶
東京都教育委員会
…高校教育指導課長 賀澤恵二先生
東京都公立高等学校長協会
……………協会長 石川和昭先生
全国高等学校教頭会
……………会長 綿田直樹先生
東京都立学校事務長会長
……………会長 後藤和美先生
東京都立高等学校教頭会歴代会長代表
……………第19代会長 山本恒太郎先生
5. 来賓紹介……………会長
6. 閉会の辞……………副会長

(3) 創立40周年記念祝賀会兼歓送迎会

日時 平成14年6月13日(木)

17時30分～19時30分

フロラシオン青山にて

- ・参加者 59名
- ・新入会員紹介
定時制より転任 32名
新任 12名
- ・会員の異動
退職者 11名
退職者は次の通り
渡辺正久(新宿山吹)
新妻 紘(国際)・英 勇(西)
小林 公(練馬工)・清水 巖(豊島)
矢島邦男(足立)・石橋忠司(日本橋)
福井利和(小岩)・多胡静男(東)
相川鞆彦(第三商)
百済琢也(小平南)
校長栄進者 26名
全日制内の転任 32名
- ・感謝状、記念品贈呈 4名
- ・創立40周年記念誌の発行(平成15. 3)

5. 幹 事 会

総会に次ぐ機関で主に総会提出議案や総務部会からの原案の審議を行う。

第1回幹事会

5月9日(木) 14時30分～17時
於. 神楽坂エミール

出席者 66名中 31名

【会議次第】

議長 第7学区常任幹事

1. 会長挨拶……………相川会長
2. 平成13年度事業報告……………相川会長
3. " 決算報告…和田・大田原新会計
4. " 監査報告…久住・伊藤新監査
5. 平成14年度事業計画と予算案
……………会長・会計
6. " 緊急連絡網他……………事務局
7. 新役員選出 役員組織(都・全国候補)
……………町田新会長・綿田全国会長
8. 全国部会組織……………綿田全国会長
9. 新旧役員挨拶……………都本部・全国三役
10. 全国教頭会報告……………綿田全国会長
11. 事務局より(総会その他の連絡)
12. 学区・学科・研究部の報告
……………常任幹事・部長・委員長

【コメント】

- ⇒ 教育委員会「教頭功労」表彰の紹介
英 勇(西) 石橋忠司(日本橋)
多胡静男(東) 福井利和(小岩)
相川鞆彦(第三商) 百済琢也(小平南)
(3. 28付 6名)
- ⇒ 総会の議案審議・創立40周年記念式典について、議案は異議なく承認。
- ⇒ 学区等の支部教頭会報告が毎回時間不足になる。今後もっと時間をかけて情報交換を密にしたい。
- ⇒ 昨年あたりから幹事の出席率が悪くなってきた。教頭がそれだけ出にくくなってきても現実であろうが、幹事会の今後の在り方も検討する時機にさしかかっているように思われる。

第2回幹事会

11月7日(木) 14時30分～17時
於. 神楽坂エミール

出席者 66名中 26名

【会議次第】

議長 第9学区常任幹事

1. 会長挨拶……………町田会長
2. 本年度上半期の事業報告……………町田会長
3. " 会計中間報告……………和田・大田原会計
4. " 中間監査報告……………久住・伊藤監査
5. 平成15年度行事計画……………坂本副会長
6. 全国教頭会報告……………綿田全国会長
7. 会報30号執筆について・他……………事務局
8. 教頭研究協議会報告……………合津副会長
9. 学区・学科・研究部の報告……………常任幹事他

【コメント】

- ⇒ 各学区・学科の幹事の出席率、第1回・2回とも各17%。今後検討の余地あり。
- ⇒ 九月教頭研の反省
 - ・今年から会場の変更で問題点あり。定時制が研究部縮少の方向。
 - ・会場の工夫と他の部会が聞けるようにする必要あり。
 - ・各県の地道な研究の成果が、全国大会で重要な情報となる。とくに東京の研究発表は全国から注目されている。はたして、このままではその期待に副えうるか。
- ⇒ 常任幹事へ教頭会活性化の方向をさぐる「教頭会アンケート」を配布。研究部会のあり方についての質問が中心。
- ⇒ 後期活動費の支給。
- ⇒ 関東地区研究協議会報告
11月13～14日 於. 埼玉県さいたま市
・綿田会長以下3名出席。

【講 話】16時20分～17時00分

「最近の教育課題と教頭のあり方」

東京都教育委員会委員長 清水 司先生

【要旨】

教頭会の幹部の先生方がお集まりになるということで、本日は講話というお話でございましたが、むしろ皆様方から日頃どうしてこうなんだといったようなことや、こうして欲しいんだがどうなんだということいを率直に伺わせていただきたくてまいりました。お手元にお配りした資料「新しい時代を切り拓くたくましい日本人の育成」～画一から自立と創造へ～は、全国の教育委員長が招集されたとき、遠山文部科学大臣から渡されまして、小泉首相も了解したので平成15年度はこの計画で予算を組むという説

明がございました。

教育改革につきましては非常に急速にググル変わっております。私も、平成元年に中教審の会長を仰せつかり14期の教育審議会をやったわけですが、平成2年に生涯学習に関する答申を出して生涯学習振興法をそのとき成立させました。そのあと平成3年に出した答申では、とにかくもう少しゆとりある教育をしようではないかという話が率直に出てまいりました。受験競争が激しかった時代ですから、受験の過密な状態を何とか是正していかなければいけない。ちょうど高度経済成長期真っ盛りというような時代でしたので、できるだけ良い高校に、良い大学にそして良い企業に、という風潮の激しい時代でした。それを是正するためには大学の入試をもっと絞らせる、そのためにも初等中等教育での教育課程を厳選するというような答申を出しました。その後、15期中教審が生きる力というのを出しました。

遠山文部科学大臣になってから新しい教育改革として教育新生プランというものを作成しました。「自ら考え行動するたくましい日本人」というのは、ご承知のとおり東京都の新しい教育目標「自ら学び考え行動する」と同じようなことでございます。社会に役立つ、社会に貢献する子供たちの育成は東京都の目標ですが、同じようなことがここにあるわけでございます。文部科学省としても学習内容の3割削減とか学力の低下とか、結果を見ないうちにいろいろ言われ、ゆれているようで、一体どうなっているんだ、というのが私の率直な感じでございます。ここで出てきたのが「人間力」という言葉です。私どもはこれは「人間力」と言わないで「生きるちから」の方が良かったのではないかと思うのですが、「人間力戦略」というようなことで新しい時代を切り拓くたくましい日本人の育成～画一から自立と創造へ～というのが15年度のテーマでございまして、この目標も東京都と同じです。

「確かな学力の育成」は、学力低下といわれることからきているわけですが、基礎基本を徹底して自ら考える力を養成するというのは私どもが平成2年に答申で出したものでございます。2枚目の裏をご覧くださいますと「人間力戦略」実現のための主要施策の例が上がっており

ます。これらに予算をつけてやるというふうにご覧いただいたほうが良いと思います。確かな学力の育成～国民の教育水準は競争力の基盤～の競争力とは国際競争力の基盤になるのだということで、自らそれを考え、学ぶ、そういった力を育成する学力向上アクションプランという形で、学力向上のためのいろいろなフロンティア事業やいろいろな研究校を何校かあげておりました。

私どもとしても少人数教育・習熟度別指導のための教職員定数の改善計画については強く要請しているところでして、その辺についても十分配慮するというところで進められております。教えるプロとしての優れた教師の育成・確保については、教員養成機能の強化ということでその具体的な計画または10年研修、新評価システムの導入、児童生徒への指導が不適切な教員の転職措置等々を実施をするようです。また、優秀な外部の人材の導入とか、特色ある学校、安心して学べる環境づくりに予算をかけるというのが実情でございます。表題に～画一から自立創造へ～とありますが、画一に対して多様という対句がありわけございまして、自立と創造というよりも多様と言ったほうがいいかもしれません。ご承知のように、東京都の教育計画、新しい高校のプランというのは、第一次、第二次、そして新しい第三次という計画も個々の個性と多様化を生かし、子どもたちの能力を伸ばしてやるためにそれに相応しい学校を揃えていくということから多様化が進められているわけございまして、進学重視校とかチャレンジスクールとか、単位制、高校総合制、商業と工業を結び付けた産業高校など、いろいろなものが計画として出てきております。そういった意味でむしろ画一から多様化ということ、その中には勿論自立と創造が含まれるわけですが、これは個別の能力ですからそれらを伸ばすための努力をしていかなければいけないのだということでございます。そのようなことが来年度の文部科学省の教育目標で、その具体的な施策だと言うことをご覧いただきたいと思います。

3枚目の「豊かな心の育成」では、東京都の教育目標の一つにも入っています。ここでは伝統文化の尊重とか奉仕・体験活動の推進と言ったことが言われていますが、3ページの裏にも

ございますように科学技術創造立国の実現のための予算がついております。初等中等教育から高等教育まで含めた新しい新生プランは、あまり目新しいものではなく、私の感想を言わせていただきますと一応ありがたいことではあるけれど、あんまり急ぐなよと言いたいところもありまして、問題は教育の現場をシッカリ見ていただいて、実際に実施していく上でそれなりの手当てをしていくことが実は本当は大事なのではないかと、思っております。その点に於いては教育庁自身にも文部科学省にも共通して言えることですが、行政官であって教育者ではないのです。その意味では評論家が何か言っているような感じが、私なんかにはときどきするわけです。先生方もそういうことを痛切にお感じになることが多いのではないかと思います。今日はむしろそういったことを私の方で聞かせていただければありがたいなと思っております。

私が一つ申し上げたいことは、大学の知識というものはほとんど役に立たなかった、とお感じになれるほうが多いと思います。知識というのはどんどん変わっていくんですね。だとすると、問題はその時代その時代をどういうふうに掌握してそれを自分のものにし、自分の必要なものとしてそれを活用し社会にも働きかけ成り立たせていくかという力が必要なのであって、そういう意志とか意欲のほうが大事なのだと思います。

私の経験から申し上げますと、MIT、マサチューセッツ工科大学というのがアメリカにありますが、あそこには本学の教育目標というのが書いたのがある、*You and your student*というパンフレットがあります。Youは教授を差しています。あなたの学生に対して今あなたが教えている知識は、卒業してもどれだけ役にたつか分かりませんよ、とハッキリ書いてあります。しかしその学習の中で学生に学ぶ意欲や習慣を身につけさせることがMITの目標だと書いてあります。今、人生90年です。22歳で大学を出ると50年間は働かなければならないのです。今、企業で仕事の変化は5年から10年、10年なんてもたないと企業なら言います。この変化を乗り越えられる基礎的な力・意欲・意思、それがむしろ大事なんです。そこで出てきたのが「人間力」という言葉、「生

きる力」にかえて「人間力」をつけるといった言葉が出てきました。

しかし、今申し上げたように基礎になるものとは一体何なのでしょう。曾野綾子さんがこういうことを言っていました。中学校を卒業するときは人間性を、高校を卒業するときには人生を考えさせる。高校時代は人生を、中学校時代は人間を考える、ということを書いていましたが、私も確かにそうだと思います。小学校や中学校時代はしつけの問題がいろいろと出て来ます。家庭の教育だとか地域の教育だとかいった問題が出てくるわけですが、やはり人間性の問題なのだと思うわけです。

21世紀はまさに生涯学習の時代です。学校教育は生涯学習の入口であり、生涯学習のための学校教育だという理解を示さなければいけないのではないかと思います。このプログラムの中にも生涯学習と言う言葉は盛られていますが、私は生涯学習のための学校教育として学校は社会に開かれていかなければならないと思っております。とくに高校以上ですね、短期大学、大学、全てがそういった意味では変化していく時代に対応するために自己を充実させる、社会人として働く、そういう役立っていく、それが学校だと思います。これは、教育というよりは自発的な学習によらなければいけないわけで、そういう場を社会に提供していく、これが学校の役割ではないかと思います。チャレンジスクールなどは最高年令60数歳の人が入ってきてそれなりに学習していますが、私はいろいろなレベル、学ぶ機会を与えることが大事ではないかと思っております。アメリカの活力はそういう多様な学習の機会を社会に提供しているからではないかと思っております。

生涯学習の歴史はずいぶん古く、イギリスが生涯学習を始めたのは17世紀で、18世紀にヨーロッパに広まりました。戦後とくにユネスコが生涯学習を強く取り上げました。平成11年に、小淵さんが参加したドイツのケルンサミットでケルン憲章が出されました。21世紀は変化の激しい時代です。これを生き抜くためには学習の機会をいろいろなレベルで作っておかなければいけません。そういったものが常に求めに応じて答えられるようにすることで社会は進歩し発展していきます。そのためには基礎になる教育

をしっかりとやらなければいけません。資料には、今申し上げたような意味でバリアフリーを学校に作るというようなこと、先生方にはプロとして優れた指導力を養成するためのいろいろな手当など、非常に細かいことまで書いてあります。学習指導要領に示されていない「発展的な学習内容」の記述を可能とするような検定制度の改善も近いうちにやります。

「人間力」としてどのようにまとめるのかという表は2ページに載っています。左側がどちらかと言うと初等中等教育中心、右側が高等教育中心というふうにお考えいただいて、下側に新しい時代を生きる日本人の特性として、こうでなければいけないのではないかというようなことが示されています。これらが今考えられている教育改革の骨子だということをご覧いただきたいと思います。

私は、先程申し上げましたように現場からの声というのは案外教育委員会には入っていないし、教育庁の中にも来ていないという気がします。このあたりを何とかしなければいけないのではと日頃考えているわけでございます。本日、先生方とこういう機会をつくって頂いたことは大変ありがたいことだと思います。最初に申し上げましたように、教育改革が何だかんだといわれながらあっち行ったりこっち行ったりしているような感じを私はもっております。しかし、基本的なところではそんなに変わっているわけではありません。そういった部分はキチッとあるので、これは一つ堅持をしていただいて先生方にもがんばっていただきたいなと思っております。東京都もいろいろな施策を出しておりますが、一番ご苦労かけているのは私は教頭先生だと思います。先生方は、現場の教員の先生方と校長との間にはさまり苦労されています。どちらかと言うと校長は顔、実際にやることは先生方という感じだと思います。そういう意味では大変ご苦労が多いわけで、先方の日頃のご苦労を話していただき、これをまた行政の中で反映させていきたいと思っております。これはお約束いたしますので、どうぞ一つご発言を頂きたいなと思っております。今後とも宜しく申し上げます。

【教育情報交換会】17時20分～19時30分

講話後に開催。清水先生にもご参加いただき、講話の中で足りなかった点などについて質疑応答をした。先生は1人1人の教頭の話しに熱意に耳をかたむけてくださり、教頭の意気も大いにあがった。おかげで、盛会のうちに終えることができた。



6. 総務部会

第1回

14年4月11日(木) 14時30分～17時
於. 神楽坂エミール
出席 35名中 23名

【会議次第】

- 司会 第6学区常任幹事
1. 開会挨拶……………相川会長
 2. 昨年度の活動概況……………相川会長
 3. 事務局からの連絡
年度当初の会合日程……………事務局
 4. 学区・学科・研究部会の
名簿作成の連絡……………事務局
 5. 新役員推薦(会長、副会長、
会計、会計監査)……………相川会長
 6. 全国役員候補(会長、副会長、
会計、会計監査)……………綿田会長
 7. 新旧役員(全国、都関係)挨拶
……………町田新会長他新旧役員
 8. 全国高校教育会報告……………綿田全国会長
 9. 学区・学科支部の報告……………各常任幹事
 10. 研究部・委員会報告……………部長・委員長

【コメント】

⇒例年通り旧総務部員と新役員者と候補で開催。

今年度は創立40周年を予定。全員心を一つにして記念式典を挙げる決意を新たにしました。

⇒新役員候補紹介のほか新年度での最初の会合なので、学区・研究部などの組織体制に関する指示が多い。

⇒教頭数 238名 昨年度比 1名減

⇒教頭連絡会が、7月あたりから23区と多摩の2つに別れる全体導入の予定との報告あり(都会長)。

⇒文部省の補助全打切りに伴い、全国会費を平成15年度から会費を500円値上げして¥4500とする。(全国大会)

【教育懇談会】

引き続きエミールにて

17時30分～19時30分

⇒この懇談会は勇退・栄進者・旧役員の歓送と、新役員の歓迎の意味がある。その自覚を持ち、連絡を密にして結束していきたい。各教頭がタコツボ状態にならないことが肝要である。

第2回

7月4日(木) 14時30分～17時
於. 神楽坂エミール
出席 35名中 21名

【会議次第】

- 司会 第8学区常任幹事
1. 会長挨拶……………町田会長
 2. 教頭会総会・懇談会会計について
……………和田・大田原会計
 3. 9月教頭研究協議会について
……………合津副会長
 4. 学区・学科・研究部会の名簿作成の連絡
……………事務局
 5. 全国高校教頭会報告……………綿田全国会長
 6. 都教頭会の活動報告……………町田会長
 7. 事務局より
 8. 学区・学科・研究部の報告
……………常任幹事・委員長
 9. 40周年記念誌編集について……………副会長

【コメント】

⇒常任幹事・研究部などから教頭会活動活性化のための積極的提案などをうけた。

⇒研究部会の参加者がすくない。活性化するにはどうしたらよいか、組織替えの必要性などの声もあり。(区部と多摩地区とに別けるなど)

⇒40周年記念誌の発行予定、平成15年3月。900部印刷。

⇒1～2年目の教頭には極力研究部に参加するよう心がけて欲しい。

⇒いつものことだが、総務部会に出席できない学区については、近隣の学区の常任幹事が当日の資料を渡すようにして欲しい。

⇒事務局移転、H15. 10予定。

第3回

10月10日(木) 14時30分～17時
於. 神楽坂エミール
出席 35名中 27名

【会議次第】

- 司会 第10学区常任幹事
1. 開会挨拶……………町田会長
 2. 会計中間報告……………会計
 3. 同監査報告……………会計監査
 4. 全国教頭会報告……………綿田全国会長

5. 40周年記念誌発行について……………副会長
6. 平成15年度行事計画……………副会長
7. 今後の予定・その他……………事務局
8. 九月教頭研についての反省等
……………渡邊副会長
9. 学区・学科・研究部の報告
……………常任幹事・部長・委員長
10. 教頭会活性化のための積極的提案等
⇒教頭連絡会の会場が各学科かそれとも全体
でかの決定が開催まで日程に余裕が少ない。
⇒全国大会（長崎）参加者 名。東京から
の参加者は 名。
⇒支部会計報告書の提出期限の厳守および各
学区等で会計書・領収書等の整備、保管を。
⇒九月教頭研の件
 - ・全体を通して平均出席率 60%
 - ・研究部会への参加者が少なく、メンバー
が固定化している。
 - ・講師の齊藤尚也理事の講話が好評。
- ⇒研究部活動が時間がとりにくくなって調整
に苦労するとの報告あり。
- ⇒総務部員記念写真撮影（40周年誌掲載用）

第4回

15年1月9日（木） 14時30分～17時
於、神楽坂エミール
出席 35名中 24名

【会議次第】

- 司会 第1学区常任幹事
1. 会長挨拶……………町田会長
 2. 教頭会創立40周年記念誌について
……………副会長
 3. 全国教頭会報告……………綿田会長
 4. 校長会との話し合いについて……………町田会長
 5. 支部活動費の報告……………会計
 6. 事務局からの連絡……………事務局長
 7. 次年度への事務引継……………同次長
 8. 学区・学科・支部の報告……………各常任幹事
 9. 研究部会の報告……………各研究部長
 10. 教頭会活性化のためのアンケート報告
……………会長

【講話】

「主幹制導入に伴う教頭のかかわり方をめぐ
って」

都立学校事務長会長 有馬正明先生
（都立大森高等学校事務室長）

【概要】

日頃、事務室の業務で教頭先生方にご理解・
ご協力をいただきまして本当にありがとうございます。各学校の室長・事務長に成り代わりま
して感謝申し上げます。

今、お手元に資料をお配りしましたが、今日
は、自律経営推進予算と主幹の活用という2本
立てで話してくださいという依頼でございまし
た。

まず自律経営推進予算ですが、学務部の公式
見解では、いわゆるマネジメントとは人、教
職員ですね、もの、施設設備のことです。金、
情報、この四つを駆使して、組織の維持発展を
図ること、これが公式の見解です。自律経営推
進予算というのは、15年度から始まります、校
長の学校経営計画を予算面で支えて、いわゆる
経営者としての校長が目指す学校を実現するた
めに新たに設けた、いかえれば、自律経営推
進予算の枠の中で節約した予算を今まで取り組
めなかった分野に重点的に配布したらどうです
かということ、これが学務部の骨子です。

公立高校ではまだ範囲が限られていますが、
今回の自律予算というのは、旅費とか、いろい
ろな分野まで含めて、はい、どうぞ、学校で考
えてやってくださいと、早番なと思います。
その時には、かなりいろいろなことができて良
いのではないかと考えます。

それで自律経営予算ですが、予算編成上の役
割で校長、教頭、事務長、3者で役割があるん
ですが、校長はもちろん自律経営推進予算の基
本的な方針を定めて教職員に周知するという一
つの大きな仕事があります。教頭先生方、教科
ですとか教科外の予算要求の調整をやられてい
るのですけれど、例えば学校の中を見渡して生
徒のロッカーが随分痛んでいるから、これを年
次ごとに思い切って買い換えていこうとか、昇
降口の下駄箱が汚く外来者が見たらまず幻滅す
るのでこれを取り換えてやろうとか、そういつ
た大きなところで何か一つ見つけて、それを予
算化するために各教科・分掌の方に「お前たち、

ちょっと我慢してくれよ。」と、そういった調整が必要になってくるのではないかと考えています。やはり教科・分掌の予算をやっている先生は自分のことしか考えていませんので、そうなってくると、自律予算と言っても、蓋を開けたらこの学校も以前とそう対して変わらないような状態になってしまいますから、今自分の学校に何が必要なのかを探していただいて、それに向けて各教科・分掌から出てきた不要不急なものについては、ちょっとこれは少し我慢しろと、そういう調整が教頭先生方にこれから求められてくるのではないかと思います。

たとえば自分の学校で習熟度別授業をやりたいと提案すると、必ず教員はそんな小部屋はないじゃないかと、本当はやりたくなくてそういった物理的なことをまず挙げて、出来ない理由を一生懸命探して反対意見を出します。そういう時にこの自律経営予算を利用して「じゃ、教室をパーテーションで区切りましょう」と、パーテーションの購入に100万だったら100万当てるとか、そういう形で対応するとか、総合的な学習で学年単位ぐらいの講演会・イベントを何か企画しようということであれば、それなりの講師の謝礼を今までと違ってやろうと思えば準備できます。あと、先程ロッカーとか昇降口の下駄箱の話をしましたけれど、生徒用の机・椅子につきましては、教育委員会の方も半分面倒を見ましようと言っていますので、意外と生徒用の机椅子など一番勉強に必要なものが取り残されている学校が多いと思います。というのは、教育委員会の指定の机・椅子でウッディー君・エコさんというのがあるのですが、ウッディー君というのは木製でガッチリしていて天板の面積もいわゆる一般的に使われている生徒用机よりかなり広く、あれなどは揃えてやると子供たちはかなり喜びます。実は大崎高校で全面改築をしたときに、一学年分だけ新校舎に入れていただいて、後は年度別に計画して買い換えている最中です。やはり、良い机が入ったということで子供たちは喜びました。机・椅子については、今、使っているJIS規格の机・椅子の金額とウッディー君・エコさんの机とではだいたい倍ぐらい金額が違います。その差額分をもし学校で申請すれば教育委員会は検討しますということになっています。それと先程言ったロッ

カーですとか、下駄箱ですとか、あと学校ですとピアノとかの高額備品がありますが、そういったものの計画を立てれば、200万以上のものについては半額を教育委員会で補助を検討しますと言っています。ただ、半額は学校で持ちますからやはり、さっき言ったようにその部分を予算化できるかどうかということだと思います。「その分こういうものを買換えるのだから、先生方ちょっと我慢してくれよ」、それが教頭先生の調整の力によるところではないかというふうに考えます。

主幹の活用ですが、主幹が生まれた背景は先生方もよくご承知だと思います。レジメの方に望ましい学校運営組織、現在の学校運営組織、そして現在の学校運営組織を何とかするために新たに主幹を設置しましょうという、これは皆さんもう百も承知だと思います。主幹の職責としては補佐機能・調整機能・人材育成機能・監督機能があります。これについての詳しい話は3枚目に、これは都政新報という新聞なのですが、そこに主幹に求められる資質・能力、先程言いました教頭の補佐としての調整機能・人材育成・指導力について説明が載っています。それと主幹制度を導入することによりどういう効果があるのかという記述が載っていますので、後ほど読んでいただければ参考になると思います。

主幹の活用は、私の考えではいわゆる主幹職は行政系の係長職に相当すると考えています。私も、都庁で9年間係長級の職にありまして、その後事務長で出て室長になったわけですが、その経験を踏まえて、係長職に求められるものをレジメに整理してみました。まず必要なものは主幹の場合ですと、主幹に当てられた分掌の知識ですね、それがまず必要なことです。それと理解・判断力、状況把握の正確性とか迅速性、困難な状況での判断力、企画力ですね。特に、ここの中で必要なのは問題の発見と解決能力、この辺の能力が主幹に求められてきます。また、折衝・対応能力ですね、これはもう説得力が無ければ分掌を動かすことができませんので、こういった能力は必要です。これと規律性、これは当然のことです。積極性・協調性・責任感・仕事の整理とゴチャゴチャ並べましたが、こういった能力や資質が指導監督層に求

められているのではないかと考えます。

それで、主幹に能力・実力を発揮させるにはどう対応していったらいいかということなのですが、やはり主幹との情報交換が一番大事ではないかと考えます。知らないことを、お前、こうやれって言われると人間というのは頭にきます。やはり情報を流して、この次にはこういうことがあるよと、相手に予め察知させておくことが必要ですので、主幹との情報交換と、あと基本方針の伝達、校長としての方針、教頭先生としての方針を常に主幹にたたき込んでおくことが必要になってきます。

主幹が配置されて、すぐに何が必要かといいますと2つあります。まずは校長を中心にした、いわゆる学校全体の経営方針の打ち合わせの場ですね、ここには当然、校長、教頭先生、事務長、主幹もはいてもらい経営会議のようなものが必要になってきます。もう一つは教頭中心の主幹会議、これはぜひやっていただければ宜しいと思います。というのは、教育庁の中でも熱心な課長になりますと毎朝係長会をやっています。そういうところで情報交換して、課長として考えていることを日々係長に詰め込んでいく。この2つが必要になってきます。

どうして教頭中心の主幹会議が必要かと申しますと、2枚目に都立学校の組織略図を載せておきましたが、これは先月の教頭連絡会で同じようなものをご覧になっていると思います。教頭先生というのは指導部門のトップであって、教育課程の進行管理責任者です。教頭中心の主幹会議というのは教育課程の進行管理を行う。校長は指導部門と管理部門の長ですので、校長先生方にも私はよく言おうと思っているのですけれども、もう教育課程については教頭先生にまかせなさい、と。教頭先生が主幹を動かして教育課程の進行管理をやる。校長はもう一つ上のレベルで学校経営を考えたほうがよろしいのではないかと思います。そうならないと、いままでの校長職というのはあまりにも教育課程に没頭しすぎている。ですから、この際、主幹が導入されるのですから、はっきり校長の役割はこうだ、教頭先生は教育課程の責任者だ、事務室長・事務長は行財政の責任者だ、そういう位置づけで組織的に学校運営を図っていく時代になってきたのではないかと私は考えています。

それと2番目には主幹が担当する分掌の進行管理は教頭先生がやらなくてはいけない。主幹の資質にもよるところに書いておきましたが、必要以上に口は出さないということ、逆に主幹の分掌運営が明らかに間違っているときは即座に言ってあげる。ここで遠慮をしてしまうとズルズルと悪いほうへ行ってしまいますので、そういった場合はすぐ注意してあげる。それとこれも肝心なことなのですが、頭ごなしにその主幹の分掌組織の教員を直接指導したり、主幹と相談なく主幹の所掌について校長と相談するか、そういうことをやりますと主幹が臍を曲げて上手くいかなくなる、そういう所に注意されると宜しいと思います。役所でいいますと、課長が勝手に部長と話をつけて、いきなりお前たちこれをやれよ、なんて言ったらもう係長はソップを向いて、そんなもの自分でやればいいじゃないか、とそういう話になってしまいます。それと、仕事は今まで言っていたように主幹に任せているのですが、最後の責任はやはり教育課程の進行管理の責任者である教頭先生が、俺が責任を取るんだよという意識を持たれて主幹に臨むと宜しいのではないかと思います。それと先程の3枚の都政新報にいろいろと主幹の資質能力について説明がありましたけれども、主幹に欠けている能力や資質を早く見抜いてやって、それに応じた指導育成を教頭先生方が行われていく。こう言ったことを今年4月以降主幹が配置になりましたら、主幹と接するときの心構えとして臨まれれば、鍋蓋式の学校組織も主幹制で上手く変わっていくのではないのでしょうか。私はそういうふうに期待しております。私の説明は以上で終わらせていただきます。

【コメント】

⇒アンケートの概略の報告（総務部会・幹事会に関して）

⇒教頭会で宿泊の研修会を実施し研鑽に努めている学区ありとの報告。

【賀詞交換会】

恒例により会議後に開催。

総務部会で十分情報交換ができなかったところの不足を補う。

7. 特別委員会

会 長 町 田 昶

1. 都立高等学校等入学者選抜に関する懇談会委員

町田 昶（保谷）

- ・ 平成14年度都立高等学校等入学者選抜結果から、平成15年度都立高等学校等入学者選抜の改善に資する諸事項を懇談する会の委員

2. 東京都教育管理職等連絡会理事

町田 昶（保谷）

- ・ 東京都公立学校の校長、教頭及び教育委員会の事務室長が職務上の任務に起因して訴訟を提起された場合、応訴費用を貸し付けることにより個人の金銭的な負担を軽減するとともに、東京都における学校教育の円滑な運営を図ることを目的とした会の理事

3. 東京都管理職等応訴費用貸付審査会委員

坂本文樹（小平南）

- ・ 東京都教育管理職等応訴費用貸付規定第9条に基き、応訴費用貸付を審査する委員

4. 東京都職員互助会運営委員

綿田直樹（調布北）

- ・ 東京都教職員互助会の諸事業の運営に関与する委員

5. 日本教育会東京都支部役員

理 事

町田 昶（保谷） 坂本文樹（小平南） 合津敏夫（蔵前工）

評議委員

小林幹彦（大森） 銅谷新吾（世田谷工） 今橋美文（光丘） 藤田正美（小石川）
星野裕史（白鷗） 北爪幸夫（墨田川堤） 松浦啓介（山崎） 田中 透（東大和南）
柴田英男（小平西） 錦織政晴（稲城） 竹原勝博（八丈）

- ・ 日本教育会の諸事業に協力し、支部事業（総会、研修会、支部報発刊等）を企画・実施する役員

6. 東京都公立高等学校PTA連合会相談役

町田 昶（保谷）

- ・ 東京都公立高等学校PTA連合会の諸事業に関して相談を受ける相談役

7. 東京都教育公務員弘済会評議委員

合津 敏夫（蔵前工）

- ・ 東京都教育公務員弘済会の諸事業に関する諸事項を評議する評議委員

3. 主な活動報告

1. 全国高等学校教頭会

1. 会 合

5月10日(金)	監査・本部役員会	東京・事務局	4県	13名
28日(火)	総務部会 第1回	東京・アルカディア市ヶ谷	7県	23名
6月10日(金)	理事研究協議会 第1回 (含、地区研究協議会)	” ”	47県2市	95名
7月5日(金)	総務部会 第2回	” ”	7県	22名
24日(水)	研究部会	富山 富山国際会議場	9県	18名
”	全国理事研究協議会第2回	” ”	45県3市	99名
25日(木)	総会・研究協議大会	富山国際会議場 及県民会館	47県4市	1,074名
26日(金)	研究協議大会	”		
10月11日(金)	中間監査・本部役員会	東京・事務局	3県	10名
22日(火)	総務部会 第3回	東京・アルカディア市ヶ谷	7県	24名
11月8日(金)	常任理事会	” ”	20県	34名

2. 地区協議会

北海道地区	① 5月15日～16日	於. 小樽市	東海地区	10月18日	愛知県主管
”	② 11月26日	於. 札幌市	近畿地区	10月31日～11月1日	兵庫県 ”
東北地区	10月31日～11月1日	福島県主管	中国地区	開催せず	
関東地区	11月12日～13日	埼玉県 ”	四国地区	10月24日～25日	徳島県 ”
北信越地区	11月14日～15日	石川県 ”	九州地区	10月10日～11日	熊本県 ”

3. 刊行物

・発表資料集	第22号	平成14年6月28日	110頁	2,100部	参加者・県教委・校長会などに配布
・全国要覧	第25号	” 9月30日	52”	6,100部	会員・県教委・校長会などに配布
・会報	第62号	” 9月29日	12”	6,100部	” ” ” ”
・研究集録	第27号	” 10月16日	124”	6,100部	” ” ” ”
・全国大会集録 (長崎県)	第39号	” 10月30日	185”	6,100部	” ” ” ”
・調査研究集	第26号	平成15年2月27日	64”	6,100部	” ” ” ”
・会報	第63号	平成15年1月20日	16”	6,100部	” ” ” ”

4. 研究発表

県 題 (富山3題、東京3題、山梨2題、島根2題、12県各1題)

部 門	全 国 大 会	研 究 集 録	計
管理運営	北海道 東京 福井 島根 富山	埼玉 滋賀 山口	8県8題
高校教育	岩手 東京 三重 高知 富山	愛知 山梨	7県7題
生徒指導	山梨 東京 京都 鹿児島 富山	秋田 島根	7県7題

2. 東京都立高等学校教頭研究協議会

東京都立高等学校教頭会

東京都公立高等学校定通教頭会 共催

東京都教育委員会の教育目標及び基本方針にあるように21世紀の教育をリードするのは東京からであるという自負の下、我々、教頭は己の所属する学校でいかに特色をだし、日本の未来を担う人間を育成するか。

東京都教育委員会においても主幹制度の導入、自律経営推進予算等、都立高校改革に対する支援が来年度から実施に移されようとしている。それに応え、我々は管理職の立場で学校経営の重要性を踏まえて取組まなければならない。そのためにも教頭の研修は必要である。

本研究協議会を開催するに当たり、下記の日程で、役員会・運営委員会を開く。始めに13年度研究協議会の総括、次に14年度の企画・立案・運営・準備し実施する。実施にあたっての心配ごとである出席率は、多忙のなか、教頭の出席率が60%を超えたことは自らの意識改革・資質向上を図り、高校改革を推進しようとする現われであると確信する。また、来年度の本研究協議会を活性化するために1回多く役員会を開き検討を行なった。

運営役委員会日程

6月14日(金) 第1回 蔵前工業

7月22日(月) 第2回 都庁第一庁舎

9月6日(金) 第3回

東京都教職員研修センター分館

(東京都総合技術研修センター)

12月5日(木) 第4回 都庁第2庁舎

実施事項

1. 趣 旨

都立高校改革推進計画を踏まえ、都立高等学校の個性化・特色化を図り、都民の期待に応え得る高等学校教育を推進するため、当面する教育課題について研究協議を行うことにより、教頭としての識見を高め、各都立高等学校の学校運営並びに教育指導の充実に資する。

2. 日 時

平成14年9月6日(金) 13:15~16:30

3. 場 所

東京都教職員研修センター分館

(東京都総合技術研修センター)

4. 参加対象者 都立高等学校教頭 342名

全日制課程 236名

定時制・通信制課程 106名

(副校長を含む) 出席者 204名

5. 内 容

中心課題：高校改革の推進を図り、都民の期待に応える、魅力ある都立高校の実現

－開かれた都立高校をめざして－

6. 分科会

当面する教育諸課題について6分科会を設け、提案に基づいて研究協議を行う。

第1分科会 「企画調整会議と主任の活用」

第2分科会 「教頭の職務－人材育成」

第3分科会 「完全学校5日制並びに新学習指導要領の完全実施に向けた対応について」

第4分科会 「学校外における学修の単位数認定について」
課題

第5分科会 「スクールカウンセラーから見た学校現場」－スクールカウンセラー導入校における事例調査Ⅱ－

第6分科会 「教員のカウンセリングマインド育成について」－学校教育相談研修を生かす上での教頭の役割－

7. 全体会

講話を通じて、高校教育の未来を展望し、学校経営に主体的に参画できる教頭としての識見を高める。

(1) 教育委員会挨拶

指導部主任指導主事 揚村洋一郎先生

(2) 講 話

東京都教育庁 理事 斉藤 尚也先生

(3) あいさつ

都教頭会 会長 町田 昶

都公立定通教頭会

会長 矢島 賢二

(4) 進 行

都教頭会副会長 合津 敏夫

都定通教頭会副会長 竹内 重雄

副会長 合津 敏夫(蔵前工)記

4. 学區別支部教頭会報告

1. 第1学区教頭会

第1回教頭会

平成14年4月16日(火) 14時～17時

芝商業高等学校

1. 教頭連絡会
2. 都教頭会より
3. 学区教頭会より
4. 電話連絡網の確認
5. 情報交換

第2回教頭会

平成14年5月17日(金) 14時～17時

南高等学校

1. 教頭連絡会
2. 都教頭会より
3. 学区教頭会より
4. 情報交換

第3回教頭会

平成14年6月11日(火) 14時～17時

蒲田高等学校

1. 教頭連絡会
2. 都教頭会より
3. 学区教頭会より
4. 情報交換

第4回教頭会

平成14年7月16日(火) 14時～17時

東京都公文書館

1. 教頭連絡会
芝商業高等学校
2. 都教頭会より
3. 学区教頭会より
4. 情報交換

第5回教頭会

平成14年9月17日(火) 14時～17時

鮫州工業高等学校

1. 教頭連絡会
2. 都教頭会より
3. 学区教頭会より
4. 情報交換

第6回教頭会

平成14年10月14日(火) 14時～17時

一橋高等学校

1. 教頭連絡会

2. 都教頭会より

3. 学区教頭会より

4. 情報交換

第7回教頭会

平成14年11月19日(火) 14時～17時

日比谷高等学校

1. 教頭連絡会
2. 都教頭会より
3. 学区教頭会より
4. 情報交換

第8回教頭会

平成14年12月17日(火) 13時30分～17時

東京都教職員研修センター

1. 教頭連絡会
2. 都教頭会より
3. 学区教頭会より
4. 情報交換

第9回教頭会

平成15年1月17日(金) 14時～17時

城南高等学校

1. 教頭連絡会
2. 都教頭会より
3. 学区教頭会より
4. 情報交換

第10回教頭会

平成15年2月17日(月) 14時～17時

大崎高等学校(予定)

1. 教頭連絡会
2. 都教頭会より
3. 学区教頭会より
4. 情報交換

第11回教頭会

平成15年3月14日(金) 14時～17時

八潮高等学校(予定)

1. 教頭連絡会
2. 都教頭会より
3. 学区教頭会より
4. 情報交換

学区幹事 小池幸彦(大森東)記

2. 第2学区教頭会

第1回定例会 世田谷工業高校

平成14年4月16日(火)

1. 会場校 吉田教頭挨拶(校長出張のため)
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等
 - ・指導部の体制について
 - ・教科「情報」の講習会について
 - ・新教育課程の届出について
3. 学校運営上の課題についての意見交換
 - ・教科「情報」の講習会について
 - ・次回からの会場校について

第2回定例会 桜町高校

平成14年5月17日(金)

1. 会場校 山室校長挨拶
2. 人事部管理主事から
 - ・主幹制度の概要について
3. 学区担当指導主事からの諸連絡等
 - ・「情報」の教員の推薦について
 - ・教科書の採択について
4. 学校運営上の課題についての意見交換
 - ・PTA総会の日程について
 - ・「総合的な学習の時間」について

第3回定例会 松原高校

平成14年6月11日(火)

1. 会場校 八木校長挨拶
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等
 - ・長期休業中の研修について
 - ・早期選考の防止について
 - 学校運営上の課題についての意見交換
 - ・週休日の出張の扱いについて
 - ・年間授業計画について

第4回定例会 都職員研修所

平成14年7月16日(火)

1. 全体会
 - ・新配置計画について(学務部)
 - ・サービスについて(人事部)
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等
 - ・IT専門家について
3. 学校運営上の課題についての意見交換
 - ・長期休業中の研修について

第5回定例会 第一商業高校

平成14年9月17日(火)

1. 会場校 山崎校長挨拶
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等

・教科書の選定について

・ティーチングアシスタント活用事業

3. 学校運営上の課題についての意見交換
 - ・夏期休業中の各校のサービス状況

第6回定例会 青山高校

平成14年10月15日(火)

1. 会場校 海野校長挨拶
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等
 - ・教育課程実施状況調査について
3. 学校運営上の課題についての意見交換
 - ・ホームページの設置状況
 - ・社内研修について

第7回定例会 新宿高校

平成14年11月19日(火)

1. 会場校 小栗校長挨拶
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等
 - ・司書定数について
 - ・主幹制度について
3. 学校運営上の課題についての意見交換
 - ・授業改善に向けた取組みについて
 - ・校内予算について

第8回定例会 都職員研修センター

平成14年12月17日(火)

1. 全体会
 - ・サービスの厳正について
 - ・教育課程の適正実施
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等
 - ・生徒による授業評価について
3. 学校運営上の課題についての意見交換
 - ・年間行事計画の作成について
 - ・15年度教育課程の作成について

第9回定例会 国際高校

平成15年1月17日(金)

1. 会場校 川島校長挨拶
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等
 - ・卒業式の実施について
 - ・生徒による授業評価について
3. 学校運営上の課題についての意見交換
 - ・教育課程の改善について
 - ・外部評価を生かした学校運営について

第10回定例会 園芸高校 予定

第11回定例会 小石川工業高校 予定

常任幹事 銅谷新吾(世田谷工)記

3. 第3学区教頭会

第1回定例会 大泉高校 出席者24名

平成14年4月16日(火) 14時～17時

役員の選出 常任幹事 今橋(光丘)

幹事 谷島(鷺宮) 澁谷(杉並)

会計 奈良井(中野工業)

1. 指導部連絡

- ・ティーチングアシスタントの活用他

2. 総務部会報告

- ・教頭会の活動が低調 教頭の仕事が益々増える中研究会への出席は無理な状況がある

3. 協議情報交換

- ・各学校の抱える問題点や質問事項をFAXで渡し、それを取りまとめ指導部が回答する

第2回定例会 石神井高校 出席者23名

平成14年5月17日(金) 14時～17時

1. 指導部連絡

- ・教科「情報」講習受講者の数の調査他

2. 総務部会報告

- ・高大連携『墨田川高校』の夏季講座
- ・40周年教頭会祝賀会参加人数について

第3回定例会 富士高校 出席者22名

平成12年6月11日(火) 14時～17時

1. 指導部連絡

- ・学校連絡協議会外部委員会の開催について

2. 協議情報交換

- ・TAIMSの活用と校内LAN及び主幹を各校3名選出についての情報交換

第4回定例会 竹芝公文書館 出席者23名

平成14年7月16日(火) 14時～17時

1. 指導部連絡

- ・教科書の選定結果と需要数の報告他

2. 総務部会報告

- ・40周年記念誌の原稿依頼 9月の教頭研究協議会には多数が参加してほしい。

第5回定例会 鷺宮高校 出席者22名

平成14年9月17日(火) 14時～17時

1. 指導部連絡

- ・教育課程の分析報告(総合的な学習の時間教科「情報」の取り扱い方が不十分)他

2. 協議情報交換

- ・長期休業中のサービスと中学生の学校見学対応 玄関に職員名票を置いてチェック 整理簿

チェックと補助簿作成の学校が大部分 中学生の対応は主に教頭、日直、教務、広報担当

第6回定例会 荻窪高校 出席者22名

平成14年10月15日(火) 14時～17時

1. 指導部連絡

- ・生徒による授業評価の実施 校内研修の充実
- ・就職指導の充実 エレベーター利用状況調査

2. 総務部会報告

- ・教頭会の活性化について 教頭職の激務化があり研究会に出席不可ある学区教頭会は事例報告を行っているので3学区も事例の報告研修会を行ったかどうか

3. 協議情報交換

- ・ホームページの立上がり状況について HPに載せる基準は指定された項目については全て載せ、内容は各学校にまかせる 教務部が作成し、情報アドバイザーが助言している

第7回定例会 第四商業高校 出席者23名

平成14年11月19日(火) 14時～17時

1. 指導部連絡

- ・「校内研修の充実」についての説明他

2. 協議情報交換

- ・カードリーダーの導入に関する報告研修会 大泉、杉並の2校より報告がある 9月から操作を行ったがトラブルはなし ゲートを通し忘れが時々いるが目立っていない 出勤時刻後ゲートを通し『遅刻』表示になった

第8回定例会 目黒研修センター 出席者23名

平成14年12月17日(火) 14時～17時

1. 指導部連絡

- ・『いい授業しようよ!』生徒による授業開発

2. 協議情報交換

- ・「教育課程改善に向けた取り組み」について 指導の重点の改善と授業時間の確保の意見交換 期末考査後6時間実施 2学期制への検討

第9回定例会 杉並高校 出席者22名

平成15年1月17日(火) 14時～17時

1. 指導部連絡

- ・卒業式、入学式の適正な実施について他

2. 協議情報交換

- ・研究団体等の分担金について
一律の支払ではなく研究の実績に応じ分担金を出している 調整は予算のヒアリングの時で実績を考慮している等の意見あり

学区幹事 澁谷重雄(杉並)記



4. 第4学区教頭会

第1回教頭会

平成14年4月16日(火) 北豊島工

1. 指導部からの連絡(田神指導主事)

学校経営計画と自己評価の導入、都民による学校評価、HPの作成、ティーチングアシスタント(緊急雇用対策事業)

2. 協議・情報交換

年間授業計画の作成状況、「総合的な学習の時間」の各校状況

第2回教頭会

平成14年5月17日(金) 竹早

1. 指導部からの連絡

教科書選定委員会の設置

2. 撰梅管理主事からの連絡

夏季休業中の研修について6月に提示、「情報」「司書教諭」「主幹」教員を各学校から推薦してほしい

3. 協議・情報交換

授業評価の観点、年間授業計画の配布状況、自己PRカード

第3回教頭会

平成14年6月11日(火) 豊島

1. 人事部からの連絡(黒崎副参事)

休業中の研修の扱いについて

2. 指導部からの連絡

学校運営連絡協議会外部委員連絡会の開催について、長期休業期間の講習について

3. 協議・情報交換

休業中の研修の扱いの疑問点、教科書選定進捗状況及び疑問点

第4回教頭会

平成14年7月16日(火)

全体：都公文書館 学科：芝商高校

1. 学務部からの連絡(藤森課長)

新配置計画案、学校経営計画策定と都教委の評価と支援

2. 人事部からの連絡(細井係長)

主幹級職の選考について

3. 指導部からの連絡(石川主任指導主事)

教科書の選定結果等

4. 協議・情報交換

休業中の出勤確認の方法、主幹の異動

第5回教頭会

平成14年9月17日（火）向丘

1. 指導部からの連絡

重点支援校について、教育課程実施状況調査（11/12）について

2. 協議・情報交換

中高連携の推進、中学の冷房導入状況

第6回教頭会

平成14年10月15日（火）文京

1. 指導部からの連絡

生徒による授業評価

2. 協議・情報交換

長期休業中の服務監察、授業観察状況

第7回教頭会

平成14年11月19日（火）北園

1. 指導部からの連絡

学校司書の定数見直し、主幹について
入学、卒業式の都議への招待状

2. 協議・情報交換

テーマを決めての情報交換「校内研修と授業改善」

業務服務監察状況、グループ研修状況

第8回教頭会

平成14年12月17日（火）

全体会・学区：目黒研修センター

1. 学務部からの連絡

学校経営と教頭の役割（星川参事）
自立経営推進予算の編成（板倉担当係長）

2. 人事部からの連絡

服務事故防止

3. 指導部からの連絡（石川主任指導主事）

学校運営連絡協議会外部委員連絡会

4. 協議・情報交換

テーマを決めての情報交換「新学習指導要領に基づく教育課程の編成」

第9回教頭会

平成15年1月17日（金）志村

1. 指導部からの連絡

生徒による授業評価、入学選抜実施日の扱い

2. 協議・情報交換

テーマを決めての情報交換「教育課程の適正実施取組、学校評価を生かした教育課程の編成、総合的な学習の時間の取組」

第10回教頭会（予定）

平成15年2月17日（月）大山

第11回教頭会（予定）

平成15年3月14日（金）高島

以上、今年度からの新たな施策等を中心にまとめた。十分な情報交換の時間の確保が今後の課題である。

常任幹事 藤田正美（小石川）記



5. 第5学区教頭会

○概要

前年同様、教頭連絡会の形態で行われた。

指導部の担当は、佐々木、岡田両指導主事であった。運営は、はじめに全日制、定時制が合同で会を行い、主に校長連絡会で伝えられた教育庁各部からの連絡を1時間から1時間半程度行った後に、質疑応答、意見交換を行い、その後、全・定に分かれてそれぞれの情報交換を行った。また、今年度からの試みとして学区別に開催するのではなく「全体会」として開催されたことが2回あったが、全体会の終了後に学区別の会合がもたれた。

また、全学区を通しての意見交換のテーマが指導部から提示され、意見交換を行った。11月は「授業改善に向けた校内研修の充実」、12月は「教育課程の改善に向けた取り組み」、2月は「生徒による授業評価の導入に向けた教頭の役割」があげられた。

全体的には、時間的な余裕がいつもなくて、なかなか質疑応答、意見交換の時間がとれなかった。また、全定別に分かれた後の情報交換ももっと時間があればさまざまな情報の交換ができたと思う。例えば、今年度の夏季休業から長期休業日中における「研修」が大幅に変更となり、その対応について、それぞれの教頭が工夫して実践しているが、その具体例等が十分な時間的な余裕を持って発表することができたのではないだろうか。ともあれ、限られた時間、制約の中で、自校の持つさまざまな諸問題において解決への方途が見出せるように、教頭連絡会を生かしていくことができたらいと思う。

○14年度日程

- | | | |
|------|-----------|------------------|
| 第1回 | 4月16日(火) | 白鷗高校 |
| 第2回 | 5月17日(金) | 淵江高校 |
| 第3回 | 6月11日(火) | 足立東高校 |
| 第4回 | 7月16日(火) | 東京都公文書館
芝商業高校 |
| 第5回 | 9月17日(火) | 青井高校 |
| 第6回 | 10月15日(火) | 蔵前工業高校 |
| 第7回 | 11月19日(火) | 足立新田高校 |
| 第8回 | 12月17日(火) | 教職員研修センター |
| 第9回 | 1月17日(金) | 晴海総合高校 |
| 第10回 | 2月17日(月) | 忍岡高校 |

第11回 3月14日(金) 日本橋高校

○14年度転出入

藤松(青井)が小岩、鈴木(台東商業)が市ヶ谷商業、瀧上(蔵前工業)が町田工業、土肥(晴海総合)が神津の各校長に栄転した。また、亦木(日本橋)が田柄、寶槻(忍岡)が井草、森山(足立)が大山、岡(淵江)が桜町定時制、伊藤(青井)が本所、高田(台東商業)が指導部、菊地(上野忍岡)が第四商定時制、橋本(晴海総合)が目黒の各校から、村田(蔵前工業)、今澤(足立工業)がそれぞれ転入した。なお、管又(忍岡)は小松川、山際(淵江)は東、三木(上野忍岡)は赤坂、小島(足立工業)が墨田工業へそれぞれ転出した。

○14年度活動状況

学区における情報交換は、一学期においては主に「長期休業中の研修」について行われた。新しい制度でもあり、暗中模索に近い状態の中で、それぞれの学校の実情にふさわしい対応や事務処理の方法案等が話され、大いに役立てることができたと思う。また、二学期には「主幹制」「司書教諭」等、15年度に向けての課題についての情報交換がなされた。

また、全学区で共通テーマとして行われた意見交換では、11月の「授業改善に向けた校内研修の充実」、2月は「生徒による授業評価の導入に向けた教頭の役割」があげられ、活発な意見が各教頭から発表された。なお、12月は「教育課程の改善に向けた取り組み」が予定されていたが時間の関係から行われなかった。

学区全体の雰囲気は、今年は10人という半数近い教頭の異動があり顔ぶれが一新したのだが、従来までと同様に、和やかな中にも厳しい状況に対する真摯な取り組みへの意欲に溢れたものだった。

○第5学区都立高校合同説明会

13年度から実施してきた合同説明会は今年も足立区北千住の「学びピア」で実施した。亦木(日本橋)星野(白鷗)が中心となり準備を進め、各校の校長、教頭はもとより多くの教員の参加・協力の下、盛大に開催することができた。ただ、中学生の模擬試験と日程が重なり、やや参加者が少なく、日程の調整に考慮が必要と考えている。

常任幹事 星野裕史(白鷗)記

6. 第6学区教頭会

昨年度から、学区教頭会は、都教委主催の教頭連絡会の後に行われることになった。今年度は、教頭連絡会も2年目であり、都教委としても運営方法を工夫したものと思われる。

第1は、全体会の導入である。今年度は、全11回の教頭連絡会のうち第4回・第8回の2回が全体会の形で行われ、他の9回は学区ごとに行われた。

第2は、テーマを設定した「意見交換」である。教頭連絡会の内容は、「連絡事項」「質疑応答」「意見交換」「その他」であるが、「意見交換」については第8回（12月）から全学区共通の統一テーマで行うことになった。

第6学区では、第3回（6月）から予め学区担当指導主事と常任幹事が相談して意見交換のテーマを決め、常任幹事から数校に事例報告をお願いする方式をとった。各回のテーマと事例報告校は右記のとおりである。

教頭連絡会は、都教委の開催通知では、通常14:00～16:30である。（第8回は連絡内容が急遽増えたため、13:30～17:00であった。）

教頭連絡会が終了した後、全日制と定時制とに分かれて学区教頭会を行う。定例の学区教頭会の内容は、「教頭会（幹事会又は総務部会）報告」「各研究部報告」「協議・情報交換」であるが、報告まで行るのが精一杯で、協議・情報交換に時間が十分ぞれず、話し合いを深められない憾みがあった。

今年度の第6学区教頭会における情報交換等を振り返ると、特徴的なことの1つ目は高大連携であり、2つ目は長期休業日における研修の取り扱いである。

高大連携は、昨年度末、第6学区の都立高校と東京電機大学との間で協定が締結され、墨田川高校を会場に年間14回の「キャンパス IN 6学区」が開催された。また、8月には同じく墨田川高校を会場として、都立四大学と第1学区～第6学区の都立高校間の「'02夏！都立サマー・キャンパス」が実施された。教頭連絡会の最後、全定が分かれる前に、高大連携事業運営委員会事務局（墨田川の及川教頭）からPR資料・受講申込書・受講生状況報告等の資料が配布され、状況が報告された。

長期休業日における研修の取り扱いについては、第3回（6月）の教頭連絡会で人事部から新制度の説明があり、質問は常任幹事がまとめて行うようにとのことであった。何回も「学区教頭→常任幹事→人事部」のルートで質問を提出した結果、立て続けに人事部の「Q & A」が出され、そこには6学区からの質問も多く取り上げられた。

以下、今年度の教頭連絡会の会場等と第3回以後の「意見交換」のテーマ及び事例報告校を掲げておく。

第1回 平成14年4月16日 於墨田川

第2回 平成14年5月17日 於葛飾野

第3回 平成14年6月11日 於江戸川

①教科書採択及び選定の取組み

報告：江戸川、向島工、深川（定）

②校内研修の取組み

報告：城東・江東商・葛西工・小松川（定）

第4回 平成14年7月16日 於公文書館・芝商

①組織マネジメント研修報告

報告：玉井教頭（墨田川）

第5回 平成14年9月17日 於科学技術

①「総合的な学習の時間」

報告：南葛飾・紅葉川・南葛飾（定）・小松川（定）・江戸川（定）・向島工（定）・墨田工（定）

第6回 平成14年10月15日 於葛飾商

①学校運営連絡協議会の外部評価の活用

報告：葛飾野・篠崎・小松川（定）・向島工（定）

②中学校等との連携

報告：第三商・科学技術・向島商・本所工

第7回 平成14年11月19日 於葛西工

①研究授業等の教員間の授業改善の取組み

報告：科学技術・両国・第三商（定）・本所工（定）

②校内研修の取組み

報告：本所・南葛飾・江戸川（定）

第8回 平成14年12月17日 於研修センター

①教育課程の改善に向けた取組み（共通）

第9回 平成15年1月17日 於水元

①教育課程の改善に向けた取組み（共通）

第10回 平成15年2月17日 於墨田工（予定）

第11回 平成15年3月14日 於両国工（予定）

常任幹事 北爪幸夫（墨田川堤）記

7. 第7学区教頭会

第1回定例会 平成14年4月16日(火)

南多摩高 (全定合同)

1. 会場校甲田校長挨拶
2. 教育委員会より連絡－金澤指導主事－
 - ①校長連絡会(4月23日)の内容
 - ②事故報告、教科「情報」の現職教員等講習会、ティーチングアシスタント他
3. 情報交換：新教育課程における家庭科の単位数、土曜出張の扱い、特認研修の実施状況

第2回 平成14年5月17日(金) 山崎高

1. 会場校平山校長挨拶
2. 教育委員会より連絡－金澤指導主事－
 - ①校長連絡会(5月14日)の内容
 - ②事故報告、都立学校経営支援委員会、司書教諭養成講習受講他
3. 情報交換：新教科「情報」について、周年行事実施予定校日程確認、主幹受験者見込

第3回 平成14年6月11日(火) 町田工

1. 会場校瀧上校長挨拶
2. 教育委員会より連絡－金澤指導主事－
 - ①校長連絡会(6月10日)の内容
 - ②事故報告、平15使用教科書の選定他
3. 意見交換：年間授業計画の保護者・生徒への公表について
4. 情報交換：総合学習、HP進捗状況他

第4回 平成14年7月16日(火)

多摩社会教育会館

1. 全体会
学務部：新配置計画について他(前田副参事)
学校経営計画策定他(磯貝副参事)
人事部：服務、主幹級選考(鈴木係長)
指導部：教科書選定、事故防止(揚村主任)
2. 教育委員会より連絡－金澤指導主事－
 - ①校長連絡会(7月9日)の内容
 - ②事故報告、情報教育の推進他
3. 情報交換：長期休業中の研修について

第5回 平成14年9月17日(火)

富士森高校 (全定合同)

1. 会場校佐藤校長挨拶
2. 教育委員会より連絡－金澤指導主事－
 - ①校長連絡会(9月10日)の内容
 - ②事故報告、ティーチングアシスタント他

3. 意見交換：長期休業中の研修について

4. 情報交換：監査、新教科「情報」について、教職員のPTA会費納入、HP進捗状況

第6回 平成14年10月15日(火) 八王子東

1. 会場校殿前校長挨拶
2. 教育委員会より連絡－金澤指導主事－
 - ①校長連絡会(10月8日)の内容
 - ②事故報告、学校運営連絡協議会連絡会他
3. 情報交換：生徒による授業評価、HPの進捗状況、平均持時数、教員同士の授業参観他

第7回 平成14年11月19日(火) 八王子北

1. 会場校山口校長挨拶
2. 教育委員会より連絡－金澤指導主事－
 - ①校長連絡会(11月12日)の内容
 - ②事故報告、学校運営連絡協議会外部委員連絡会について、生活指導の充実について他
3. 意見交換：授業改善に向けた校内研修

第8回 平成14年12月17日(火)

多摩社会教育会館

1. 全体会
学務部：学校経営計画の導入他(太田副参事)
人事部：教職員の服務他(木嶋管理主事)
指導部：生徒による授業評価他(揚村主任主事)
2. 学区別分科会

(1) 教育委員会より連絡－金澤指導主事－

- ①校長連絡会(12月10日)の内容
- ②事故報告、学校設定科目届け出他
3. 意見交換：教育課程の改善に向けた取組み
4. 情報交換：授業時間の確保について、同窓会とPTAの会費徴収について他

第9回 平成15年1月17日(金)

八王子工 (全定合同)

1. 会場校校長挨拶
2. 教育委員会より連絡－金澤指導主事－
 - ①校長連絡会(1月14日)の内容
 - ②事故報告、生徒による授業評価他
3. 意見交換：特色ある学校づくりに向けた教育課程編成の事例、総合的な学習の時間
4. 情報交換：PTA入会同意書について、土曜業務について、頭髪の指導について

第10回 平成15年2月17日(月) 松が谷高(予)

第11回 平成15年3月14日(金) 八王子高陵(予)
常任幹事 松浦啓介(山崎)記

8. 第 8 学区 教頭会

第 8 学区は東京の北西部一帯の地域であり、それぞれの地域に根ざした学校が多い。周辺に私立高校は少なく都立志向が強い地域である。

今年度も、さらなる教育改革が進む中で、各学校は、それぞれの個性を出すべく、学校の特色化、開かれた学校づくりへと鋭意努力してきている。

そんな中で 8 学区教頭会は「元気のでる教頭会」として、次々に向かってくる教育課題に対して、研究協議や情報交換を行い、都立高校各校の推進役を果たしてきている。

以下に本年度の学区教頭会として取り上げた内容の一端を紹介する。

(1) 新教育課程の実施に向けて

15年度入学生より、週31時間以上の授業時間とする学校や 2 学期制、1 時限 65 分授業を導入する学校がある。

卒業単位は 74～79 単位が大勢を占めるが、80 単位以上とする学校が数校ある。

総合的な学習の時間については、先行実施している学校の情報や指導部のご指導を得て、準備が進んでいる。

教科「情報」については、それぞれの学校の状況により、1 学年で実施しない学校もある。

(2) 長期休業日中の研修

6 月中旬に通達があり、Q & A も出たが、各校とも多少の混乱があったようだ。

研修申請が、4 時間研修、都が認めた研究会等、大学等の公開講座、グループ研修と 4 種類もあり煩雑を極めた。

勤務の確認を「研修整理簿」へ記入する必要から教頭は休みにくい状況があった。

午前中の 4 時間研修とグループ研修の出勤簿表示が両者とも単なる「研修」表示になることから、それを区別するため、出勤簿上に識別するためのマークを着けた学校もあった。

(3) 学校説明会

教頭会等の要望が実現した形で、多摩地区での合同説明会が 11 月 10 日に立川高校で実施された。当日は中学生や保護者等、約五千人の来場者があり、熱心に各校の説明を聞いて

いた。

11 月 17 日には合同説明会が新宿高校で開催されたが、8 学区からは 3 校のみの参加に留まった。

来年度は予算の関係で多摩地区での開催が難しいとの話もあったが、学務部のご尽力を得て多摩地区での開催が検討されている。

また、各校での学校説明会も今年に入試制度が大幅に変更されたため、盛況なところが多く、千人以上の来校者があった学校が数校あった。

(4) ホームページの開設

学校独自のホームページをすでに開設している学校が数校あるが、東京都教育委員会にリンクした形のホームページにするためには、サブドメイン (metro.tokyo.jp) を取得しなければならず、インターネット接続を「マイテレビ」と契約している学校では、そのままサブドメインがとれないことがわかり、比較的安い費用でそのサブドメインがとれるプロバイダーを調べ、契約をした学校があることを聞き、いくつかの学校が追随した。

そのため、12 月中にすべての都立高校で開設予定であったが、3 月までに開設できれば良いことになった。

(5) その他

- ・学校五日制に対応した週休日の活動内容
- ・教科書選定、採択について
- ・教頭会の活性化
- ・12 月 9 日の大雪の対応
- ・同窓会、PTA の加入同意書について教育委員会との意見交換として
- ・授業改善に向けた校内研修の充実
- ・教育課程の改善に向けた取組

都立高校改革の中で 8 学区では、閉校になる学校があるが、新たにエンカレッジスクールや進学指導重点準備校、中高一貫教育校、単位制高校等、新しいタイプの学校に生まれ変わる学校もある。

教頭会としても一層の連携を強め、都立高校の充実・発展のため努力していきたいと考えている。

常任幹事 田中 透 (東大和南) 記

9. 第9学区教頭会

本年度は教頭連絡会の2年目で9学区各都立高校の会場を中心に開催されたが、都教育委員会の連絡事項が重要・多岐にわたる場合は、多摩教職員研修センターが会場になった。学区担当の平沢安正指導主事のきめ細かなリードにより、9学区の教頭連絡会はこれまでと同様に有意義な会として機能していった。以下は、その記録であるが、指導主事からの連絡・報告・指示等はすべての学区が同じであるので、ここではその後の意見交換・情報交換で協議されたこと等を中心にまとめる。

第1回定例会

4月16日（火） 国分寺高校

- ① 学校長出張のため教頭により新築後の学校紹介。
- ② 自己紹介
 - ・平沢安正指導主事と新たに8人の異動されてきた先生方を迎え新鮮な出発となった。
- ③ 連絡会（人事・学務・指導部）指導主事
- ④ 通年の授業公開について各校の状況
- ⑤ 常任幹事会・総務部会等の役割分担について（都教頭会会長・副会長、全国教頭会副会長就任予定者を含む）

第2回定例会

5月17日（金） 清瀬高校

- ① 学校長挨拶
- ② 連絡会（人事部・指導部・学務部の連絡）
- ③ 教科書選定について 9学区各校の必修得状況、大学説明会・塾の学校説明会への対応

第3回定例会

6月11日（火） 武蔵高校 定時制と合同

- ① 学校長挨拶
- ② 連絡会（人事部・指導部・学務部）
- ③ 長期休業中の研修の扱い方について 質問事項等、幹事がまとめて人事部へ。
- ④ 学力検査と調査書の比重、教頭会40周年年間授業計画の各校状況

第5回定例会

7月16日（火） 多摩教育センター

- ① 連絡会（人事部・指導部・学務部）
 - ・当日接近の台風7号への各校の対応状況
 - ・主幹制度・グループ研修等の人事部職員課長との意見交換。

② 水泳補講、承諾書等

第5回定例会

9月17日（火） 田無高校

- ① 学校長挨拶
- ② 連絡会（人事部・指導部・学務部）
- ③ 教育課程の分析
- ④ カードシステム試行校・夏季休業中サービス整理・講習の報告・4時間の振り替え要望・卒業単位数 ほか

第6回定例会

10月15日（火） 小金井北高校

- ① 学校長挨拶
- ② 連絡会（人事部・学務・指導務部）
- ③ 幹事会報告 今後の教頭研究会のあり方について
- ④ 不審者・盗難状況、「総合的な学習の時間」の評価、ホームページ各校の状況

第7回定例会

11月19日（火） 久留米高校 定時制と合同

- ① 学校長主張のため事務長挨拶
- ② 連絡会関係（教育長講話など、学務・人事・指導部）
- ③ 授業改善にむけた校内研修の充実・生徒による授業評価の取り組み事例・校内研修を授業改善に結びつける方策

第8回定例会

12月17日（火） 多摩教育センター

- ① 自律経営推進予算（学務）、教職員の服務（人事）、生徒による授業評価・進級卒業にかかる指導（指導部）各部の具体的説明
- ② 「総合的な学習の時間」の各校状況、生徒の授業評価・校内研修、調査書未発行の問題改善
- ③ 教職員の服務について

第9回定例会

1月17日（火） 小平西高校

- ① 学校長挨拶
- ② 連絡会関係（指導部より自律経営予算・都議会議員招待状・授業評価・進級卒業クレーム等）他、人事・学務部報告
- ③ 教育課程討議について 9学区各校の期末開始・期末考査後の授業確保状況全報告、学校行事・週7時間授業等
- ④ 幹事会報告（常任幹事）

常任幹事 柴田英男（小平西）記

10. 第10学区教頭会

本年度も、教頭連絡会に引き続く形で、学区教頭会が開催された。2年間、10学区を担当された大室文之指導主事が教職員研修センター統括指導主事に転出され、後任として宮野聡指導主事が学区担当となった。11月の教頭連絡会から教育課題に関する協議（※印で表示）が始まり、教頭会での幹事会、総務部会報告後に取り上げるテーマも組織的な内容と情報交換が主体となってきている。

そのなかで、各校の取り組み状況を中心に連絡、連携を密にすることが職務の遂行に重要なエネルギーとなっていることは否めない事実であり、今後も教頭会の意義は大きいと考える。

1. 指導部学区担当

宮野 聡 指導主事

2. 転入者 5名

小倉幸夫（国立）、三戸雄造（三鷹）

正角良子（神代）、石関 元（府中）

加藤 修（調布南）

3. 昇任、転任、転出者 5名

山崎廣道（大森）、平山順一（山崎）

和田盛二（小平）、中村澄隆（紅葉川）

小暮正利（清瀬）

4. 教頭会報告

臨時会 稲城高校

平成14年4月12日（金）

①教頭会のあり方

②本年度の体制

③情報交換

第1回定例会 稲城高校

平成14年4月16日（火）

①研究体制、名簿確認、幹事確認

②教頭連絡会のあり方

③監察時連絡体制

④情報交換（年間授業計画）

第2回定例会 府中高校

平成14年5月17日（金）

①教頭連絡会のあり方

②全国大会

③40周年記念誌

④情報交換（入学選抜、生徒名簿、留学生）

第3回定例会 府中工業高校

平成14年6月11日（火）

①全国大会、教頭会総会、40周年行事

②IT専門家

③情報交換（授業観察、卒業単位、研修報告書）

第4回定例会 多摩社会教育会館

平成14年7月16日（火）

①全国大会、教頭研究協議会

②教頭会の持ち方

③情報交換（長期休業期間中の研修）

第5回定例会 府中東高校

平成14年9月17日（火）

①教頭研究協議会

②情報交換（臨時時間割、総合的な学習の時間、長期休業期間中の監察）

第6回定例会 永山高校

平成14年10月15日（火）

①管理研究部アンケート

②情報交換（PTA会費、総合補償加入）

第7回定例会 狛江高校

平成14年11月19日（火）

※授業改善に向けた校内研修の実施

①関東地区教頭研究協議会

②情報交換（授業観察）

第8回定例会 多摩社会教育会館

平成14年12月17日（火）

※「総合的な学習の時間」

①教頭会会費の取り扱い

②情報交換（進級、特別指導、生徒実態）

第9回定例会 調布北高校

平成15年1月17日（金）

※学校評価（外部評価、内部評価）

①教頭連絡会のあり方、参加の仕方

②情報交換（入学選抜）

第10回定例会 府中西高校

平成15年2月17日（月）

※生徒による授業評価

①教頭会会費の予算計上、3月研修

②情報交換（講師名簿、講師時数、異動に伴う休業期間中研修の取り扱い）

第11回定例会 調布南高校

平成15年3月14日（金）を予定

常任幹事 錦織政晴（稲城）記

11. 島しょ地区教頭会

島しょ学区教頭会は、大島・大島南・新島・神津・三宅・八丈・小笠原の7校9名(舎監長2名含む)で構成している。定例会には大島・八丈の定時制も参加して合計11名で実施している。教育庁主催の教頭連絡会時に定例会を開催して、意見・情報交換及び課題や問題点等について協議し、有効に活用している。しかし、様々な要因から全員が揃う機会が少ないことや、都区内の情報がなかなか入手できないことが当面の課題となっている。

○第1回 4月16日(火)：芝商業高校

初顔合わせ、出張旅費の有効利用、今年度の活動内容の確認について情報交換を行う。島しょ学校の課題の一つに出張旅費の有効利用があり、隔遠地旅費の運用について各校の対応を協議。

○第2回 5月17日(金)：南高校

教科「情報」担当教員の認定講習会参加について指導部へ旅費確保の要望を行うことを確認。PTA会費について各校の金額確認と教員の会費納入について意見交換を行う。

○第3回 6月11日(火)：蒲田高校

教職員の服務、長期休業中の研修申請の対応等について情報交換を行う。

○第4回 7月16日(火)：都立公文書館

八丈高校が企画している学校間交流について参加の有無と今後の在り方について討議。長期休業中の研修対応等について島しょの学校の実情を踏まえ、島しょ校長会へ要望しながら対応することを確認。期末考査後の授業計画、長期休業中の服務確認等について意見交換を行う。

○第5回 9月17日(火)：鮫州工業高校

夏季休業中の研修対応の実態やグループ研修の在り方についての情報交換。島嶼P連大島大会について出欠等の確認。

○第6回 10月15日(火)：一橋高校

司書教諭、文書管理、校内研修の実状等について意見交換を行う。

○第7回 11月19日(火)：日比谷高校

参加者が少なく、第1学区と合同で実施。校内研修の充実、防災対応等について意見交換を行う。

○第8回 12月17日(火)：都研修センター

第1学区と合同で土日の補習対策、校内研修の充実頭の意見交換会終了後、期末考査後の授業の在り方、年間行事計画について意見交換を行う。

○第9回 1月17日(金)：城南高校

1学区と合同意見交換会終了後、三宅高校、新島高校の連携型中高一貫教育校及び、島しょの連携について、入学者選抜時の自己PRの採点方法、生活指導の在り方等について意見交換を行った。

まずは、島しょ学区という地理的条件から教頭会主催の研修会や委員会等に参加することができず、多くの教頭先生方にご迷惑をお掛けしていますこと、島しょ学区教頭一同深くお詫び申し上げます。

さて、三宅高校は依然として避難生活を余儀なくされ、様々な分野で皆様方の激励を受けながら帰島できる日を待ちこがれています。今年度は、島嶼P連大会を10月26、27日に大島で開催し、島しょ教育の課題解決及び発展に向けて、講演会、分科会研修、懇親会等を行い、最後は参加者全員(約400名)で島しょ学校の発展と三宅島民の早期帰島を祈念しました。

ところで、島しょ学区の抱える課題の一つに、様々な情報の入手不足が挙げられ、生徒・教員を対象とした他校との交流や連携、インターネット等による情報交換等を積極的に推進し、円滑な学校運営に努めていく次第です。

また、定期異動につきましては、依然として島しょの学校への希望者が少なく、解決策を見出せないままに苦慮しています。自然環境豊かで純真な生徒たちと、人情味溢れる島の人々に囲まれて、島しょの教育に力を注いでいただく意欲ある先生方を募集していますので、ご協力をお願いいたします。

島しょ学区の教頭一同、今後も学区教頭会を充実させ、各学校と各島の発展に全力を尽くす所存ですので、皆様方の更なるご理解とご協力をお願いいたします。

常任幹事 竹原勝博(八丈)記

5. 学科別支部教頭会報告

1. 普通科教頭会

1. 普通科教頭幹事会

平成14年5月30日(木)小平南高校

15時30分～17時00分

議事

- (1) 会長挨拶
- (2) 会員異動報告
- (3) 平成13年度 事業・決算・監査報告
- (4) 平成14年度 役員推薦
- (5) 平成14年度 事業計画・予算案審議
- (6) 情報交換

2. 普通科教頭会総会

平成14年6月20日(木)小平南高校

16時00分～17時00分

議事

- (1) 会長挨拶
- (2) 平成13年度 事業報告
- (3) 平成13年度 決算および監査報告
- (4) 平成14年度 役員選出
- (5) 平成14年度 事業計画
- (6) 平成14年度 予算承認
- (7) その他

3. 会員異動

平成14年3月31日付

退職者 9名

平成14年4月1日付

校長栄進者 17名

全日制からの転任者 27名

定時制からの転任者 29名

新任者 5名

4. 定例会

普通科教頭会の平成14年度の定例会は以下の期日で行った。

第1回 5月30日(木)小平南高校

第2回 7月18日(木)小平南高校

第3回 9月26日(木)小平南高校

第4回 11月28日(木)小平南高校

第5回 2月24日(木)小平南高校

参加人数は少なかったが、毎回情報交換を行い、次のような内容を話し合い、で教頭会の現状と活性化について協議・研究を重ねた。

- ① 普通科教頭会の体制づくり
- ② 教頭連絡会と学区教頭会について
- ③ 研究部会と職免について
- ④ 教頭会組織の検討
- ⑤ 講演会の実施方法と講師について
- ⑥ 主幹制導入と教頭の在り方について

また、12月13日(金)の石川都校長会長をはじめ校長会役員と本部教頭会役員との情報交換会に普通科教頭幹事も出席し教頭の実情を説明し、校長会との連携を深めた。

5. 活動に関して

今年度は、前半は東京都立高等学校教頭会の創立40周年記念式典や記念誌編集などの行事が重なり、教頭会普通科部会の活動は幹事会の開催と上記の定例会を開くにとどまった。

しかし、昨年度の教頭会普通科部会が特に目立った活動もなく、講演会も実施できなかったため、今年度はぜひ講演会の実施を実現したいと考えた。

ちょうど、教頭会総務部会が11月7日(木)に総務部会終了後、東京都教育委員会委員長の清水司先生を招いてお話いただくことを企画していたので、教頭会普通部会もこの講話会に共催の形で参加する事になった。当該の各校普通科教頭に研修参加を募ったところ、当日は開始時間のかなり前から多くの先生が集まり44名出席という予想以上の盛況の中で講演会は実施された。私たち普通科部会の教頭にとってこの日の研修は貴重なものであった。

6. 研修会

内容 講演会

日時 11月7日(木)

16時00分～17時00分

会場 エミール

演題 「最近の教育課題と教頭の今後のありかた」

東京都教育委員会委員長

清水 司 先生

清水先生は、全国の教育委員長の会議の際に遠山文部科学大臣から渡された資料「新しい時代を切り開くたくましい日本人の育成～画一から自立と創造へ～」をもとに、最近の教育課題について講演され、アメリカのマサチューセッツ工科大学や曾野綾子さんの言葉を引用しながら、人間力・生涯学習・確かな学力の育成など熱心に語られた。最後は、今の教育改革は目ざましい。東京都もいろいろな施策を出しているが、あまり急がず教育の現場をしっかりと見て、実際に実施していく上でそれなりの手当てをしていくことが実は本当に大事なのではないか。教育庁自身も行政官であって教育者ではない。教育庁にも教育委員会にも現場の声が来ていないような気がする。だから今日のような機会に日頃の苦労話を聞いて、行政の中で反映していきたい。今日はぜひ現場の先生方の生の声を聞かせて欲しい、と結ばれて講話は終わった（詳細はP.18参照）。

17時30分から清水先生を囲み情報交歓会が行われたが、先生は食事に箸も付けず私たち教頭の話聞いてくださった。私たちもこの日拝聴した内容を今後の学校運営に役立たせたいと誓った次第である。

7. 終わりに

ここ数年教頭会普通科部会に対する取り組みは停滞している。都立高校改革推進計画に基づきさまざまなタイプの高校が実現し、新教育課程の実施や人事考課制度・主幹制度など高校改革は急激である。そうした現状を踏まえ、私たち教頭は一層研修を充実させ、自己を研鑽し、資質能力を高めて都民の期待に応えられる都立高校の実現に向けて努力しなければならない。

普通科幹事長 坂本文樹（小平南）記

2. 工業科教頭会

<はじめに>

本会は、都立工業高等学校28校（定時制単独校及び科学技術高校を含む）42名の教頭で構成されている。

本会の主たる目的は、調査研究・情報交換を通して、工業教育に於ける共通の課題に対する協議、今後の工業高校の在り方を検討することである。又、都民の期待に応じてより充実した工業高校を構築するため、教頭としての識見・視野を広げ、各工業高校が連携を強め、より力量のある工業高校づくりである。

大半の工業高校が教頭2人制を取っているが、そのほとんどが普通教科の教頭であり、工業教頭会は、これまでの慣例を見直すべき時期に来ている。

本会の今年度の役員の構成は、会長：渡邊征博（向島工業）、副会長：合津敏夫（蔵前工業）、小島透（墨田工業）、庶務幹事：石坂政俊（小石川工業）・浦岡勉（杉並工業）、会計幹事：田村國雄（多摩工業）・飯田満（工芸高校）のスタッフで運営してきた。

研究部会組織は、管理運営研究部会・生活指導研究部会・工業教育研究部会の3部門を設け、全員どこかの研究部会に属している。

平成14年度は、唯一出張が認められる、教頭連絡会の実施される日の午前10時30分から12時まで、工業教頭会として主に工芸高校を会場に9回実施してきた。

また、定例会の他、工業校長会と連携し、実施してきた主な活動以下に記す。

(1) 工業技術の祭典

平成14年8月2日（金）～8月6日（火）の5日間、9：30～16：50、竹橋にある国立科学技術館1階 11号展示室において、各工業高校の生徒作の展示・生徒の補助・指導による体験コーナーを設け、小・中学生の体験学習を実施した。

体験コーナーでは、鋳金・文鎮の製作・電子オルゴールの製作・相撲ロボット競技・建築模型作成・プリプラ製作等を開催した。体験コーナーでは、どのコーナーも定員の数倍を越す応募があり、大変な盛況ぶりであった。

各教頭は5日間の開催中、1.5日以上の手伝いを義務つけて臨んだ。

(2) 第2回高校生ものづくりコンテスト

平成14年8月12日(月)午前9時から午後4時まで、東京都立江戸川技術専門学校において、全国より選ばれた選手による決勝大会を開催した。

競技種目は、①旋盤作業、②自動車整備、③電気工事、④電子回路組立、⑤木材加工、⑥化学分析、⑦橋梁木型製作の7部門で、79人の代表選手による競技が行われた。「技能の甲子園」とか「高校生の技能五輪」といわれるだけあり、当日は全国から集まった保護者、引率・視察の教員、見学者、プレス等約2千人が見守る中での大会となり、素晴らしい熱のこもった技能の競演であった。

(3) 第9回工業科生徒研究成果発表大会

平成14年11月24日(日)午前10時から午後4時まで、東京都総合技術教育センター・視聴覚ホールにおいて開催された。

発表要旨は以下の通りである。

- ①全国ソーラーラジコンカーコンテストへ参加に向けて速度制御アンプの研究
(都立練馬工業高校)
- ②ものづくり全国大会に参加して
-橋梁模型製作を通してわかったこと-
(都立田無工業高校)
- ③走れ「Lets' Go- Go-」
-備長炭アルミ電池車の挑戦-
(都立砧工業高校)
- ④やきもの事始め (都立小金井工業高校)
- ⑤手作りの浴衣で八王子まつりに参加
(都立八王子工業高校)
- ⑥W・S・B・R用ソーラーカー製作
(都立中野工業高校)
- ⑦ホバークラフトの製作にあたって
(都立葛西工業高校)
- ⑧納屋造りの戦い (都立小石川工業高校)
- ⑨科学技術と伝統技術の融合に向けて
(都立科学技術高校)
- ⑩5インチゲージ ミニ電気機関車の設計・製作
(日工大付属東京工業高校)

⑪地域との交流・共生をめざす実習

-東京ドームシティのWebコンテンツ制作-
(都立工芸高校)

⑫ものづくりコンテストにチャレンジ

(都立世田谷工業高校)

⑬赤外線学習リモコンの制作

(大森工業高校)

各発表者の熱のこもった説明・発表が素晴らしく、いずれも甲乙つけがたい大会であった。

(4) 工業教頭会研究発表協議会

平成14年12月20日(金)午後4時から「神楽坂エミール」において開催した。来賓として教育委員会から佐々木 哲 指導主事、工業高校校長会から小暮 守雄 葛西工業高校長をお招きして実施した。

研究発表は、以下の通りである。

①管理運営研究部会

発表者：酒井(荒工教頭)

テーマ：「教特法20条第2項に基づく研修について」

②生活指導研究部会

発表者：今澤(足工教頭)

テーマ：「生徒指導における学校と地域社会の連携について」

③工業教育研修部会

発表者：奈良井(中工教頭)

テーマ：「より良い新教育課程編成に向けて」-アンケートによる実態把握と検討-

この研究発表会は、時間も少なく参加しにくい工業教頭会の状況の中で唯一、これからの工業教育を真剣に協議してきた集積である。この報告書は、後日冊子にして関係各方面に配布する予定である。

この他、12月26日(木)16時30分より、工業校長・教頭連絡会を開催した。

ほとんどの学校が参加し、これからの工業教育の在り方を協議し、有意義な会であった。

工業科常任幹事 渡邊征博(向島工)記

3. 商業科教頭会

商業関係教頭会は、23校の教頭24名で構成され、昨年度からの出張に関する服務規程の見直しにより、毎月、教頭連絡会当日の午前中に定例会を開催している。毎回都教委から大林誠指導主事、東京都総合技術教育センターから高橋雅信統括指導主事に連絡、指導、助言をいただいている。定例会では、都教委からの連絡・報告、研究協議、情報交換などを主として開催している。この他に、「全国高等学校教頭会総会、研究協議大会」や「関東地区商業関係高等学校教頭研究協議会」に参加するとともに、「全・定商業関係高等学校合同研究協議会」を2回実施した。

また、教頭会を通して、相互に研修を深め、教頭としての資質向上を図るとともに、円滑な校務処理を行うための機会とすることに努めてきた。平成14年度の活動状況は下記の通りである。

第1回定例会 赤坂高校

平成14年4月16日（火）10：30～

- (1) 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- (2) 都教頭会総務部会報告
- (3) 平成14年度人事異動に伴い商業関係教頭会の組織編成の決定
- (4) 平成14年度活動方針や年間計画の策定、他

第2回定例会 芝商業高校

平成14年5月17日（金）10：30～

- (1) 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- (2) 都教頭会幹事会報告
- (3) 都教頭会総会・創立40周年記念式典
- (4) 総合技術教育センター実習世話人選出、他

第3回定例会 芝商業高校

平成14年6月11日（火）10：30～

- (1) 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- (2) 商P連平成14年度定時総会
- (3) 全国商業教育研究大会座長選出
- (4) 関東ブロック大会発表者確認、他

第4回定例会 芝商業高校

平成14年7月16日（火）10：30～

- (1) 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- (2) 都教頭会総務部会報告
- (3) 都教会活性化のための積極的提言
- (4) 40周年記念誌原稿
- (5) インターンシップ実施状況、他

第5回定例会 市ヶ谷商業高校

平成14年9月17日（火）10：30～

- (1) 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- (2) 都商研教育課程分科会学科改善2校報告
- (3) リーディング・コマーシャル・ハイスクール構想I
- (4) 全国教頭会、全P連外各全国大会報告
- (5) 学校経営に関する調査、他

第6回定例会 芝商業高校

平成14年10月15日（火）10：30～

- (1) 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- (2) 都教頭会総務部会報告
- (3) 全・定合同商業教頭会再開
- (4) 体験入学情報交換、他

第7回定例会 赤坂高校

平成14年11月19日（火）10：30～

- (1) 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- (2) 都教頭会幹事会報告
- (3) 全日制商業教頭会20年の歩み報告
- (4) 服務上の諸問題等情報交換、他

第1回全・定合同商業教頭会 市ヶ谷商業高校

平成14年12月17日（火）10：30～

- (1) 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- (2) 今後の商業教育の展望
- (3) 全日制課程からの連絡
- (4) 定時制課程からの連絡
- (5) 今後、全・定商業教頭会としての取り組みたい課題
- (6) 研究協議及び報告
 - ①重点支援校報告
第四商業高校 教頭 高木 亀介
 - ②チャレンジスクール報告
桐ヶ丘高校 教頭 宇田川敏昭
- (7) 質疑応答、他

第8回定例会 赤坂高校

平成15年1月17日(火) 10:30～

- (1) 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- (2) 都教頭会総務部会報告
- (3) ホームページの開設管理者
- (4) 技能診査の単位認定、他

第2回全・定合同商業教頭会 芝商業高校

平成15年2月8日(土) 13:00～

- (1) 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- (2) 研究協議及び報告
 - ① ビジネスマンから見た商業教育
豊島地区商業高校 校長 佐藤 芳孝
 - ② リーディング・コマーシャル・ハイスクール
芝商業高校 教頭 西脇 正尚
 - ③ 普通科校から見た商業教育
篠崎高校 教頭 永井 克昇
 - ④ 評価分析と授業改善
牛込商業高校 教頭 神能 精一
 - ⑤ 商業教育雑感
池袋商業高校 教頭 青山 彰
 - ⑥ 学科改編と推進校事業
江東商業高校 教頭 戸田 弘美
 - ⑦ 生徒商業研究発表会報告
葛飾商業高校 教頭 本多 吉則
- (3) 質疑応答、講評、他

第9回定例会 市ヶ谷商業高校

平成15年3月14日(金) 10:30～

- (1) 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- (2) 平成15年度人事異動に伴い商業関係教頭会の組織編成(案)
- (3) 平成14年度活動総括
- (4) 平成15年度活動計画

以上、平成14年度商業教頭会の活動経過を報告します。時代の変化に対応した商業教育や校務運営に関する課題も山積しており、定例会等での連絡報告、研究協議、情報交換など教頭の職務遂行にとってきわめて重要です。この会が更に充実され商業教育の発展に会員一同誠意努力する。

商業科常任幹事 戸田勝昭(深川商)記

4. 農業科教頭会

平成14年度の本教頭会は、昨年と同様毎月1回の教頭連絡会当日の午前中、都立農業高等学校を会場として、全日制、定時制合同で開催された。

都立高校改革推進計画の新たな実施計画発表を控えて、農業専門教育の発展とさらなる特色化が大きな課題となった1年であった。以下に今年度の協議、取り組みを列举する。

1. 開かれた学校づくりへの取り組み

① 公開講座

農業科高校が早くから実施していた「ことぶき教室」を初めとする公開講座は、開かれた学校づくりの充実した取り組みとして実績を残してきた。週5日制が完全実施となった今年度からその実施方法に検討を迫られたが、ほぼ例年どおりの実施を各校で継続することができた。

② 都民広場前の花壇植栽

三宅高校や園芸高校定時制の参加が定着し、各校それぞれに工夫した取り組みが進んだ。

③ 東京都農業祭への参加

アグリフェスタとして都民に親しまれているこの催しを平素の教育活動を公開し、都民に農業教育の意義をアピールする場として位置づけて、生徒の参加による活性化を進めた。

④ 地域との連携活動の推進

各校とも福祉施設でのボランティア、地域の文化活動、小中学校との連携、商店街の活動参加などの取り組みを新たに進めた。

本教頭会では、以上のような取り組みについて農場主任を中心とした組織的な取り組みを進めて、今後とも継続して実施できるよう指導してきた。

各校が歩調をそろえて協力しあう場面と、独自の特色ある活動として発展させる場面として進める両面に津情報交換を密にし、前向きな議論を展開した。

2. 農場主任会の指導

昨年度ほぼ定例化して開催されるようになった農場主任会で、各校の農場主任の士気高揚に努め、農業教育発展の推進役となるよう指導・助言に努めてきた。

ここでは、新教育課程の編成・実施に向けた最終段階の協議、連絡を中心に協議が進められた他、「都立学校合同説明会」への主体的な取り組み、週5日制における農場管理の在り方、公開講座の進め方など実質的な協議を指導した。

この主任会から主幹合格者を輩出できたことは、今後の発展に期待を感じさせるものである。

3. 東京都農業教育研究協議会の活動支援

専門部会、普通科部会の研修活動を実施し、年度末には総会、研究発表会を開催し、報告書として会報を発行している。ここでも、日程調整に週5日制の実施が影響を及ぼしたが、そのような中でこれまで要望のあった技術研修会を会の事業として開催していく前向きな議論が展開された。

これは、専門教科の教職員にとって極めて効果の高い資質向上の場となることが期待されるので、本教頭会としても積極的に推進していく方針である。

4. 関東甲静地区農業関係教頭会への参加

関東甲静地区の農業高校共通の課題である、魅力ある農業高校づくりについて有意義な協議がなされる中、東京都からも研究発表を行った。

主な取り組みをあげたが、主幹性導入に伴う学校運営の改善、多様な評価による授業改善、学区撤廃に伴う応募者の変動対策など各校が連絡を取り合って解決を図ることは、本教頭会に科せられた目の課題である。これらに対処するためには、なにより本会自身が活力を持たねばならない。

これからも、連絡調整、情報交換のみにとどまらずに、農業教育の振興発展を目指して先進的な取り組みを進めていきたい。

農業科常任幹事 千谷順一郎（農業）記



6. 研究部会報告

1. 管理運営研究部会

平成14年度の管理運営研究部は、4月25日に都立狛江高校にて第1回合同研究会を開催し、委員長を、第一委員会は伊藤清教頭（狛江）、第二委員会は岩崎充益教頭（荻窪）にお願いして、今年度の研究体制を整え、研究活動をスタートした。

平成10年度から始まった都立高校改革は、平成14年10月の「都立高校改革推進計画 新たな実施計画 -日本の未来を担う人間の育成に向けて-」の策定で一つの節目を迎えた。その間、学校管理運営規程の策定、人事考課制度の導入、学校運営連絡協議会の設置など、矢継ぎ早に様々な施策が実施され、教頭はその対応に追われてきたのが実情である。授業観察や自己申告書の指導など、教頭の職務の内容が以前にも増して多様であり、多岐にわたるようになってきた。そういう状況の中でも改革を推進する立場から、この管理運営研究部は教頭の職務の在り方を研究してきた。しかし、平成13年度から、教頭研究部会への参加が出張として認められなくなり、教頭が学校から研究部会へ出てくるのがますます困難になってきた。その結果、各委員会の運営の責任を持っている各委員長の苦勞が増すこととなった。

さて、ここで目を日本や世界へ向けてみると、グローバル化やIT化など社会の変化が大きく、特にIT化によってますます現代人は忙しくなり、時間飢餓の時代ともいわれている。仕事の内容も、同じことの繰り返しではなく、多様化、複雑化している。つまり、現在の学校の状況は学校だけのことではなく、世の中全体の大きな変化の渦中にあるということである。また、教育特区など特色ある学校の設立が提案されている。都立高校も特色ある学校にしていかなければ生き残れない時代になった。その鍵を握るのは教頭である。校長の示すビジョンを実現していくために教頭の果たす役割は重要である。そのためには教頭自身が時代の変化を敏感に捕らえ、視野を大きく持って研修に努める必要がある。今の時代だからこそ、各研究部の存在意義があるのである。その考えのもと研究に取り組んできた。以下、今年度の各委員会の取り組みを記す。

第一委員会は、全国大会へ向けて、「企画調整会議と主任の活用」をテーマとして、昨年度からアンケートを実施しながら、研究を続けてきた。今年度は毎月の研究会で分析や考察を重ね、全国大会での発表に備えた。全国大会終了後は、「学校運営連絡協議会の学校評価を活用した学校経営のあり方」をテーマとしてアンケートを実施し、研究や分析を進めている。

第二委員会は「人材育成について」をテーマとして、特に初任者と主任層に対する教頭の指導・助言の実態を把握し、その取り組み状況を調査研究した。また、来年度の全国大会発表へ向けて、平成15年度から導入される主幹制度について、教頭としての期待や取り組むべき課題を調査研究した。

さて、全国大会は、平成14年7月25日と26日の両日、富山国際会議場を会場として開催され、第一委員会の北林敬教頭（砧工業）が発表した。平成15年度から導入される主幹制度を円滑に実施するために、現在の企画調整会議の現状、問題点や課題を洗い直し、改善の方向を示した発表であった。詳しい発表内容は『第41回全国高等学校教頭会 総会・研究協議大会収録（No. 39）』を参照していただきたい。質疑応答では主幹制度について活発な議論が行われた。

また、今年度の東京都立高等学校教頭研究協議会は、平成14年9月6日（金）の午後1時15分から東京都教職員研修センター分館にて行われた。第一委員会は全国大会と同じテーマであったが、さらに考察を深めたものとなっており、大いに参考になるものであった。第二委員会は「人材育成について」というテーマで押尾勲教頭（小金井北）が提案・説明した。初任者及び主任の育成が中心であったが、人材育成に奮闘する教頭の実態と学校の現状が明らかにされた。

部長 針馬利行（久留米）記

第1委員会（学校管理関係）

【昨年度を踏まえた研究体制の維持】

昨年度の研究は、安藤九二男委員長の下で、近年、まれにみる充実した内容となった。全国大会で北林敬教頭が発表した内容は、まさに、矚目すべきものであり、全国発表においてその頂点をなしたと自負しうるものとする。「教育新聞」と、「内外教育」にも引用された事実もさることながら、都教育委員会の中にも高い関心が一部に見られた。

この研究の推進役を果たしたのは、研究体制の工夫であった。安藤委員長は、従来の研究における低迷を克服するため次の改革を実行した。

- (1) 教頭経験年数別による役割分担作り
- (2) F A Xによる情報の共有化
- (3) 研究班による研究の推進

その結果、「参加者が少なくても、研究は進む」ことが確認され、研究班による研究の推進が図られた。「参加者が少なくても、研究が進む」ということは、会員を無視することではなく、都合により参加できない会員の意見を吸い上げる有効な手段としてF A Xを活用できた事実をいう。これによって、多様なアイデアを交換したり、共有することができたことは有益な発見であった。

【今年度の体制維持】

われわれが第一に考えたことは、昨年度実績を踏まえ、①研究体制の維持、②昨年度テーマを踏まえた実のある研究の実践、の2点である。

そこで、研究体制の維持のために、昨年度の改革実績としての3点を踏襲し発展させる。また、実のある研究実績を上げるために、関連する内容でありながら視点や側面を変えた研究テーマを設定することに心がけた。

【今年度研究の具体的な取り組み】

○合同委員会 平成14年4月25日（木）

於：狛江高 15：00～17：00

第1委員会と第2委員会が合同で年度始めの初会合をもった。全体で自己紹介を行い情報交換をした後、各委員会に分かれて次の3点について話し合った。

- (1) 平成14年度全国発表のための研究協議
- (2) 平成14年度本委員会役員決定について
- (3) 情報交換

なお、活動予定について、第一回を7月11日（木）、第二回を8月26日（月）とし、いずれも狛江高校で実施することとしたと確認した。

第一回 平成14年7月11日（木）

於：狛江高 15：30～18：30

参加者：北林（砧工）、浦部（東大和）、伊藤（狛江）

(1) 審議・決定事項

- ① 平成14年度全国発表の概要について
- ② 平成14年度9月6日の都教頭研究協議会の司会・記録について
- ③ 全国退会への参加要請について
- ④ 来年度発表の内容について

この④において、次年度のテーマは「学校運営連絡協議会の外部評価に焦点をあてて、外部評価を生かした学校運営の実態を調査研究し、望ましいあり方について考察する（主に教員の意識改革の実態に迫る）」という大まかな設定をした。進め方についても大まかなプログラムを立てた。

また、昨年の合意事項を遵守し、組織的活動の強化を図る、ことを再度確認した。

なお、第二回を7月16日に開催することを決定。

第二回 平成14年7月16日（火）

於：狛江高 10：00～12：00

参加者が少なく実質的進展なし。

第三回 平成14年8月26日

於：狛江高 15：00～17：00

参加者：吉田順一（世田谷工）、安藤九二男（松が谷）、加藤修（調布南）、浦部万里子（東大和）、伊藤清（狛江）

(1) 平成15年度研究テーマを決定

研究テーマ：学校運営連絡協議会の外部評価を活用した学校経営のあり方

(2) 研究目的：学校運営連絡協議会の学校評価に焦点を当てて、学校評価を生かした学校経営の実態を調査研究し、望ましいあり方について考察する。

(3) 研究方法：アンケート調査による

以上を決定。その他、アンケートの流れや今後の計画について決定するなど、実りある会となった。また、協議内容や決定事項についてF A Xにて全会員に送付するなど、情報の共有化を図った。

第四回 平成14年9月10日

於：狛江高 10:00～11:30

参加者が少なく進展なし。

第五回 平成14年10月1日

於：狛江高 14:30～17:15

参加者：北林（砧工）、加藤（調布南）、
浦部（東大和）、吉田（世田谷工）
伊藤（狛江）

この日は、都民の日ということで出やすいのでは、と思い設定したが、台風21号の接近で豪雨の中、午後6時20分まで会議を続けた。

会議は実のあるものとなり、アンケート原案と今後の予定を話し合ったが、かなり充実した内容となった。アンケート調査の依頼をTAIMSで送信することを決定。FAXから、TAIMSの活用へと変化した。

【アンケート作成と集計・分析の

タイムテーブル】

アンケート項目の作成を発送・集計・分析の年間におけるタイムテーブルを以下に示す。

《当初計画》

アンケート項目の作成……………夏季休業中
発送（TAIMS利用）……………10月
回収・集計（学区担当集計）…11月
考察・分析……………12月
まとめ……………3月
1月と2月は入選のため活動停止

《実際の進行》

実際の進行はやはり遅れる。集計・回収まではほぼ計画通り進んだが、12月に委員会を開くことができず、分析・考察はかなり遅れる見通しとなった。1月・2月は開催そのものが困難である。

【次年度への課題】

1年ごとに加速度的に業務が増えているのが教頭がおかれている現実である。研究会が出張扱いされなくなったのがそれに拍車をかけた。

とはいえ、実のある内容には全国発表においても大きな反響を呼ぶ事実がある。自らの手でこの火を消すことはできない。五輪の「聖火」のように受け継がれて、時に大きな聖火台に載るのを期待しつつ次の世代へと引き継ぎたい。

委員長 伊藤 清（狛江）記

第2委員会（職務・待遇関係）

第1回管理運営研究部合同研究会

平成14年4月25日（木）

東京都立狛江高等学校・会議室

1. 平成14年度役員選出

研究部長 針馬利行（久留米）

第1委員会委員長 伊藤 清（狛江）

第2委員会委員長 岩崎充益（荻窪）

2. 検討事項

テーマ「教頭の職務」－初任者研修・主任層の育成

管理運営研究会第2委員会は教頭の職務・待遇関係について研究を重ね、結果をまとめそれを提言してきた。

そんな課程のなかで教頭の待遇の改善がはかられた事は特質すべき事である。

今年度発表予定の研究テーマは「教頭の職務」－初任者研修・主任層の育成である。この日第2委員会はアンケートの結果分析をした。

今回は記述式回答を多くし、研修に対する教頭の具体的な取り組みについての模索を試み、教頭の職務の遂行の創意・工夫点についての提示をはかった。

毎年同じ課題であるがいかにして参加者を増やすか検討した。今回から毎月定例の教頭会にあわせその日の午前中に教頭会を開催すれば「出張」扱いになることになった。よって、一度午前中にこの研究会を主催しようということになった。

また、会場の設定も神経を使うところである。場所が近いほど参加しやすいという人も多いだろう。今年度から会場は持ち回りであらゆるところで開催しよう話し合った。

第2回研究協議会

平成14年5月23日（木）

都立荻窪高等学校会議室

この日も参加者が限られてしまった。おもに平成14年度の研究テーマの調査結果分析並びに考察について協議した。

今回記述式を増やしたわけであるがこの調査結果をいかにして客観的な資料にするか検討した。目に見える形のグラフとか数値化とかにするわけにはいかず結局箇条書きにして読者の判断を仰ぐことにした。

第3回研究協議会

平成14年6月27日（木）

都立荻窪高等学校会議室

・平成15年発表内容の検討

今年一番の話題は主幹制の導入である。この日集まった委員はその話題に集中した。平成15年度は全国大会の発表の日でもある。よって全国の教頭が関心をよせるテーマはないか検討した。その結果主幹制に関する者がテーマとしてふさわしいと言うことで話が統一した。

・全国大会発表者の選定

・平成15年度の役員候補者の検討

第4回研究協議会

平成14年7月16日（火）

都立荻窪高等学校会議室

・平成15年発表内容の検討

前回同様全国大会発表内容に関し話し合った。主幹制について研究テーマとすることで意見が一致を見たわけであるがどのような形で研究を展開していくのか全く進展がなかった。

来年なら主幹を導入して学校運営がどのように変わったかといった視点からアンケートと調査が出来る。

今年、主幹制導入元年として教頭は主幹に対しどのような事を期待するのかそんな点に焦点を絞りアンケート調査することにした。そして、主幹を導入しどのように変化したのか来年の継続研究とすることにした。

第5回研究協議会

平成14年7月24日（木）

・平成15年発表内容の検討

この日は管理運営研究部第2委員会の約7割近くの教頭が集まった。それというのもこの研究協議会は富山で実施した。全国大会の初日、富山に場所を設定し皆集まり研究協議を重ねたわけである。

この日たくさんの委員の参加があったので平成15年の研究主題について確認した。参加した教頭はいろいろの意見を出し合い結局主幹について期待することを研究主題にすることに決定した。

第6回研究協議会

平成14年9月6日（金）

都立荻窪高等学校会議室

・平成15年発表内容の検討

この日初めて午前10時半より研究協議会を実施した。やはり予感していた通り参加者は極端に少なかった。午前中から教頭は職務を抜けてこの研究協議会に参加することは難しいのであろう。

人数が少ないのでこの日はあまり進展しなかった。

第7回研究協議会

平成14年10月18日（金）

東京都立狛江高等学校 応接室

・平成15年発表内容の検討

この日会場を従来の荻窪高校から狛江高校に変更したところ新たなメンバーの参加があった。そのためかなり進行し、具体的な質問項目が完成した。

第8回研究協議会

平成14年11月21日（木）

東京都立狛江高等学校 応接室

・平成15年発表アンケート項目の検討

アンケート項目の検討に入った。主幹導入に期待することを各分野別に質問しようと言うことにした。

12月早々にアンケートをタイムズで送付し連絡委員の方へ結果を送付することにした。

第9回研究協議会

平成15年1月23日（木）

東京都立砧工業高校 校長室

・平成15年発表アンケート結果の分析・考察

昨年の12月師走の忙しい中にもかかわらずアンケート調査を実施した。各学区の連絡員の努力により回収率は8割に近かった。これほどたくさんの教頭がアンケートに答えたわけでありかなり信憑性の高い結果が得られた。

記述式の部分をどのように表記するのか、このアンケートの結果の意味するところは何か分析した。

委員長 岩崎 充益（荻窪）記

2. 高校教育研究部会

本研究部会では、3年前から第一委員会、第二委員会が合同で部会を開催している。

研究部長は武蔵村山東高校の初見豊、第一委員会委員長は牛込商業高校の福嶋順一、第二委員会委員長は城東高校の吉川英雄が務めた。

部会の加入者数は79名だが、月例部会への参加者はここ数年、少なくなってきた。学校経営上の課題が山積し、学校から出にくい状況もあるが、教頭会の目的である「共通の問題に関する調査・研究をし、会員相互の向上を図る」ために多くの皆さんの出席をお願いしたい。

ここで、研究部会に参加した経験から、その意義を整理してみる。

まず、教育や学校経営の課題を全都的な視野で捉え直して、参加者で話し合いを深めながら調査研究し考察することは、教育管理職としての資質を向上させるとともに、各学校の課題解決にとっても参考となり、意義のあることである。

また、研究部会の研究成果は、都立高校教頭研究協議会で発表され、研究収録にまとめられる。教育行政と現場の教頭としての報告や提言とが結びつくことによって、都民に対してよりよい教育サービスを開発提供できるものと考えられる。

さらに、東京都での研究成果は、毎年第一委員会と第二委員会が交代で全国高等学校教頭会研究協議会で発表している。その他、各県の紀要・研究収録に掲載された研究で、全国教頭研究協議会で発表されなかった論文から選抜して全国高等学校教頭会の研究収録が発行されているが、ここにも東京からの論文がしばしば掲載される。これらの内容は、文部科学省担当者にとっても貴重な資料となっているという。現場からの報告や提言が、文部科学行政にフィードバックされているともいえる。この点からも、研究部会の活動は意義のあるものである。

教頭会で研究活動を行う意味を、校長先生方をはじめ関係各方面にご理解いただくとともに、教頭先生各位にお考えいただき、できる限りの参加を重ねてお願いしたい。

さて、本年度の高校教育研究部会の活動であるが、第一委員会では「学校週5日制並びに新

学習指導要領の実施に向けた対応について」をテーマに調査研究を行った。学校週5日制の完全実施への対応として、45分7時間授業等の時程の弾力化や50分週2回7時間授業などによる授業時間数の確保、また土曜日の補習・講習等の実施が、それぞれおよそ30%の学校で行われることが分かった。また、「総合的な学習の時間」の単位数と内容の扱い、並びに学校の特色を明確にする上での教育課程上の工夫について調べた。

第二委員会では、「学校外の学修の単位認定－新しい学習の場の拡大を求めて－」のテーマで、高大連携・インターンシップ・ボランティア活動への取り組み状況と、今後への展望並びに教頭の果たす役割について調査を行った。また、地域の産業界と学校との連携によってインターンシップに取り組んだ事例、高大連携への取り組みを学区に属する複数の学校が協力して行った事例、工業高校でのインターンシップの事例をあげて実施までの過程を報告し今後の課題を考察した。

毎月の例会だけでは時間が足りず、教頭連絡会の終了後や平日の勤務後に同じ学区の委員が集まって研究を深めた場面もあった。困難な状況の中で研究を推進された委員の皆さんに敬意を表するとともに、ご理解とご協力、ご支援、ご指導をいただいた校長先生方、教育委員会並びに教頭会事務局の皆様には心から御礼申し上げます。

次年度の研究活動が、より多くの委員の参加を得て、充実して行われることを祈念して結びの言葉とする。

部長 初見 豊（武蔵村山東）記

第1委員会（教育課程関係）

第1回委員会

平成14年4月25日（月）工芸高校

研究協議に先立って、第1、第2委員会合同で平成14年度の高等学校教育研究部長として武蔵村山東高校の初見豊を選出した。

その後、各委員会に分かれて協議した。新しい委員を迎えての委員会であるので、自己紹介の後、委員長から、昨年度までの研究経過と、7月の全国教頭会、9月の教頭研究協議会での発表に向けた準備状況を報告した。

全年度末に実施したアンケートの結果を分析し、次回までに原稿の素案を分担執筆して持参することとした。

第2回委員会

平成14年5月13日（月）向丘高校

富山での全国教頭会、教頭研究協議会での発表者を、多摩工業高校の清水頭賢二と決定した。

原稿の読み合わせを行い、内容について検討した。原稿の締め切りが迫っているため、各委員が早急に完成させ委員長まで送付することを確認した。

第3回委員会

平成14年6月7日（金）向丘高校

作成した原稿の読み合わせを行い、さらに変更すべきと思われる部分を検討した。

また文章の推敲を行い、内容についてさらに協議した。

第4回委員会

平成14年7月10日（水）向丘高校

前回までに作成した原稿を元に、清水頭が作成してきた発表用の原稿の読み合わせを行った。

発表内容と表現について、よりわかりやすい発表原稿に仕上げた。また、発表時に使う資料の選定についても協議を行った。

第5回委員会

平成14年7月16日（火）小石川工業高校

全国教頭会の直前であるので発表原稿と資料の最終点検と9月の教頭研究協議会の第2委員会の原稿とを協同で確認した。

第41回全国高等学校教頭研究協議会

平成14年7月24日・25日の両日、富山県富山市で行われた。

第1、第2委員会隔年で発表してきている

が、発表は、多摩工業高校清水頭賢二が、「学校週5日制並びに新学習指導要領の実施への対応について」の主題で発表を行った。25日の発表であったため、24日の大会終了後に第1、第2委員会合同で発表リハーサルを行った。

平成14年度都立高等学校教頭研究協議会

平成14年9月6日（金）東京都教職員研修センター水道橋分館で行われた。

多摩工業高校清水頭賢二が提案者として、「学校週5日制並びに新学習指導要領の実施に向けた教育課程編成上の対応について」の主題で発表を行った。

特に、学校週5日制に対応しながら授業の確保に向けた工夫についての関心が示された。前大森高等学校長の牧野玲子先生に、助言者としてご指導を頂いた。

第6回委員会

平成14年10月25日（金）工芸高校

9月に行われた教頭研究協議会での、指導、助言を踏まえて発表の反省を行った。

次に、来年度の研究課題について、意見交換を行った。継続研究の2年が経過したので、研究主題を新しいものにすることで意見の一致を見た。

また、教頭会総務部会で協議を要請された、「教頭研究部会」活性化についても協議を行った。

第7回委員会

平成14年11月28日（金）牛込商業高校

平成15年度の役員人事、並びに研究課題を検討した。「学校の特色化を生かす教育課程」特に中堅校対象に研究を深める方向性を出した。

第8回委員会

平成15年1月23日（木）向丘高校

平成15年度の役員人事では、委員長に小松川高校の根本清を選出した。また、研究課題については、決定することができなかったがそれぞれ2月の例会の宿題とすること、多くの委員の参加を促すことを確認した。

委員長 福嶋 順一（牛込商）記

第2委員会（教育対策関係）

第2回委員会

平成14年4月25日（月）工芸高校

研究協議に先立って、第1、第2委員会合同で平成14年度の高等学校教育研究部長として武蔵村山東高校の初見豊を選出した。

その後、各委員会に分かれて協議をした。新しい委員を迎えての委員会でもあるので、自己紹介の後、委員長から昨年度までの研究経過と、7月の全国教頭会、9月の教頭研究協議会での発表に向けた準備状況を報告した。

全年度末に実施したアンケートの結果を分析し、次回までに原稿の素案を分担執筆して持参することとした。

第2回委員会

平成14年5月13日（月）向丘高校

教頭研究協議会での発表者を、小石川工業高校の小林晶代と決定した。原稿の内容について検討した。各委員の分担を確認した。

第3回委員会

平成14年6月11日（火）江戸川高校

各委員の原稿の読み合わせを行い、さらに変更すべきと思われる部分を検討した。

また文章の推敲を行い、内容についてさらに協議した。

第4回委員会

平成14年7月10日（水）向丘高校

前半は、第1委員会の全国大会発表の準備に合流し、前回までに作成した原稿を元に、よりわかりやすい発表原稿に仕上げた。

後半は教頭研究協議会原稿の協議を行った。

第5回委員会

平成14年7月16日（木）小石川工業高校

全国教頭会の直前であるので発表原稿と資料の最終点検と9月の教頭研究協議会の第2委員会の原稿とを協同で確認した。

第41回全国高等学校教頭研究協議会

平成14年7月24日・25日の両日、富山県富山市で行われた。

第1、第2委員会が隔年で発表してきているが、発表は、多摩工業高校清水頭賢二が、「学校週5日制並びに新学習指導要領の実施への対応について」の主題で発表を行った。25日の発表であったため、24日の大会終了後に第1、第

2委員会合同で発表リハーサルを行った。

平成14年度都立高等学校教頭研究協議会

平成14年9月6日（金）東京都教職員研修センター水道橋分館で行われた。

小石川工業高校小林晶代教頭が提案者として、「学校外の学修－新しい学習の場の拡大を求めて－」の主題で発表を行った。

高大連携とインターンシップについての取り組みを中心に「学習外の学修」の教頭の実践事例を紹介し、都立高校間及び地域との協力、連携の必要性を助言した。前小金井工業高等学校長の高間伸一先生に、助言者として指導を頂いた。

第6回委員会

平成14年10月25日（金）工芸高校

9月に行われた教頭研究協議会での、指導、助言を踏まえて発表の反省を行った。

次に、来年度の研究課題について、意見交換を行った。継続研究の2年が経過したので、研究主題を新しいものにすることで意見の一致を見た。

また、教頭会総務部会で協議を要請された、「教頭研究部会」活性化についても協議を行った。

第7回委員会

平成14年11月28日（金）牛込商業高校

平成15年度の役員人事、並びに研究課題を検討した。「進路指導」についての研究を深める方向性を出した。

第8回委員会

平成15年1月23日（木）向丘高校

平成15年度の役員人事では、委員長に南葛飾高校の三宅英次郎を選出した。また、研究課題については、「あり方生き方に迫る進路指導」と決定し、2月の例会で各委員がそれぞれの課題を提出すること、多くの委員の参加を促すことを確認した。

委員長 吉川 英雄（城東）記

3. 生徒指導研究部会

(1) 生徒研所属教頭の多様性と意識の格差

生徒指導研究部会は、他の部会に比べて、生徒や保護者・地域と接する中で解決する課題が多い部会である。その、生徒・保護者の価値観は、多様化が進み、地域差も大きい。そして、生徒指導上の課題も「生徒指導困難校」ほど大きいのが常である。

これまで多くの場合、教員が初任者として赴任する高校はこのような困難校が多かった。また、新任教頭として若い教頭が赴任するケースも定時制が多い。定通教頭会の場合は、学校を問わず生徒指導上の課題は共通する傾向があり意見交換もかなり盛り上がると聞く。

しかし、全日制に新任で着任する場合は数も少なく、ベテラン教頭に相談したり、新任教頭同士で本音で話し合える機会が乏しく、ともすると孤立し気味になるケースが少なからずあったように思われる。

何故、このような事情について触れたのかと言うと、生徒指導上の課題で教頭が直面する問題の性質・程度が学校間でかなり格差があり、教頭の意識にもかなり格差があるからである。

(2) 生徒研と研究部会運営改善を巡る動き

昨年、都教頭会は結成40周年を迎えた。その記念誌編纂事業に関わる中で、生徒指導研究部会の過去10年間に渡る活動報告を読み直す機会があった。すると、毎年のように研究部会に参加する教頭が少ないことを研究部長が訴えていたことが強く印象に残った。それには、上に述べたような事情が背景にある。

更に、最近数年間の教育改革の進展に伴う教頭の多忙化が加わる。平成13年度からは、毎月1回の研究部会への参加が、出張から職免に変わり、研究部会への出席が難しくなった。また14年度は、年度当初から、教頭連絡会が7月からは学区単位ではなく23区と多摩地区の2箇所に分かれて合同で開催されるとの見通しが流れてきた。このため、第1回の幹事会に向けて生徒研の委員会の構成について、23区と多摩地区に、1研と2研の構成を変更するとの試案も提起し検討を進めた。しかし、組織構成を変えるためには、管理研と高校研とも共同歩調を取る

ことが必要であり、また、全国大会に都から毎年3本の各部会報告があることになっており、それを变えるには、最低2年間の時間が必要なることが高橋事務局長からの指摘で分かった。そこで、都の総務部会や編集会議などの機会を利用して研究部会の在り方を探るために執行部でアンケートを実施し着実に運営の在り方を模索することにしてきた。歩みは遅々としているが、改善への糸口をつかむことができた。

(3) 生徒研の今後の運営スタイルについて

運営スタイルについては、内田志づ子第1委員長（砂川）と、鹿目憲文第2委員長（科学技術）と相談して、基本的には合同で開催する形に戻した。つまり、分割実施をにらんで検討したものの生徒研の実質的に活動している会員の分布を考えると23区と多摩地区での別開催は、会員数のアンバランスなどもあり逆に多摩地区が大幅に弱体化すると思われたからである。

そこで、10月の教頭研修会の後を利用した合同部会での意見交換において、研究協議の場と運営の場を分離して企画・運営するという方向性を確認した。

すなわち、研究協議の場は、勤務時間終了後に、外部講師を招聘して実践的な研修の場として、年に3～4回実施する。企画内容は、教育の最前線で頑張っている教頭が出席して良かったと感じる研修テーマを扱うことにする。企画は、正副委員長などが持ち回りで、日程と担当を年度当初に予め決めて行うと言うものである。

運営の実務は、別途23区や、多摩地区合同の機会や、教頭研修会などの機会を利用して、正副委員長など活動的な会員を中心に小回りを利かせて実施していくと言うものである。

簡単に言えば、生徒研の研究が目指すのは、1研・2研が協力しあい、カウンセリングマインドの学校現場への定着の実践的方策についての研究を継続すること。研究部会の運営・企画を組織的・計画的・継続的に行い、若い経験が少ない教頭が、参加したくなり、元気が出てくる内容の濃い研修会を着実に実施することである。ネットワークをつくり、後進を育てていく上で今年度は、「ピンチはチャンス」を実感した1年間だった。

部長 梶野 茂男（桜町）記

第1委員会（生活指導関係）

～新しい研究活動の在り方を求めて～

今年は教頭会40周年を迎えた。これを機にこの10年の研究部会の報告書をよむと、毎年毎年、委員会（研究部会）の参加者が少ないことへの悲鳴のようなものがきこえてくる。

今年度、都教頭会が調査した教頭の研究部会への欠席理由としてそのほとんどが校務の多忙さをあげている。教育改革が進行する中、その忙しさには拍車がかかり、このままでいくと研究部会は消滅してしまうのではないかとの危機感をもつ。

しかし、職務が多忙化しようとも、服務が職免扱いになろうとも、毎回何名かの熱心な参加者によって、研究活動が継承されてきたことも事実である。

生徒研究部会では参加者が少ないことを嘆くのではなく、どのようにしたら忙しい教頭達に研究部会に参加してもらえるか、工夫してきた。

第一は委員会活動の設定時間を参加しやすい夕方からとしたことである。また、教頭研修会や、講師任用説明会など、教頭が出張した折に、研究部会を開催し、集まりやすくした。

第二は活動場所を神楽坂エミールではなく、研究部員の所属校のうち、比較的交通便利な学校にお願いし、そこを会場校としたことである。

そして、大きな改革であるが、第一委員会と第二委員会合同で、今日的な生徒指導の問題に対して、外部講師の方にお話を伺い研修を深める形式を採用したことである。

今年度は3回にわたっての外部の方に講師を依頼してお話いただいた。以下はその概要である。

①「都立高校におけるスクールカウンセラー導入の実際について」

講師：スクールカウンセラー 工藤千尋先生
6月27日 会場：都立市ヶ谷商業高校

*スクールカウンセラーに期待されるもの
*スクールカウンセラーの学校現場での役割について

*スクールカウンセラーが管理職に期待すること

②「都立高等学校におけるアドバイザースタッフの活用について」

講師：東京都教育相談センター

大場充指導主事

10月3日 会場：都立広尾高校

*アドバイザースタッフとは？
*アドバイザースタッフの派遣が可能か
*効果をあげるために大切なこと

③「21世紀を生きていく子供たち…支援の場としての学校の役割…」

講師：京北中・高等学校、

京北学園白山高校校長 河合 正先生

1月18日 会場：都立松原高校

*子供の才能は「氏」か「育ち」か？
*子供とのコミュニケーションのとり方
*子供たちの成長と母親
*子供を支援する教師の言葉がけ
*組織運営と人間関係

校務を終了した後、何かしらの徒労感をひきずって研究委員会活動に足をむけるまでの気持ちには重いものがある。私自身、役職についている義務感だけで参加したときもある。

しかし、今年度の講師を招聘しての生徒研の活動はそれを吹き飛ばしてくれるほど、有意義なものであった。終了後、講師の方から、明日からの活動の何らかのヒントとなる指針をいただき元気になる帰ることができた。

現状の研究部会の在り方を何とかし、多くの方が参加したくなる魅力ある企画を立ち上げたいと、この1年間、ご尽力いただいた生徒研部長の梶野茂男教頭（桜町）をはじめ、生徒研の各委員の方に感謝申し上げたい。

いまでも、多くの研究部会は、研究資料として各校からテーマにそったアンケートをとり、それを集計・分析し研究するのが主流である。いつまでもこの方式でよいのか？

教頭の日々の実践の中から、真に渴望している研修を自主的に行える力がなければ研究部会が存在する意味がない。

教頭会に所属する各教頭は校種も教科も異なるが、専門研究分野を通して様々な人的ネットワークをもっている方も多い。これらを活用すれば、多様な企画が組める。

また、学区のみの交流ではなく、全都的な交流（他県ではなかなかできない）の中で研究してこそ視野が広がるのではないだろうか。

新たな取り組みの研究部会を是非発展させていきたい。



— 講師を迎えての生徒指導研究部会 —
1 / 20 松原高校にて

委員長 内田志づ子（砂川）記



第2委員会（教科外活動関係）

1. はじめに

今年度の活動は、平成14年9月6日の都立高等学校教頭会研究協議大会までと、それ以後の活動に分けられる。前半は東京都教職員研修センターへ出かけ、そこで実施されている学校教育相談研修に関する情報収集と研修修了者からの聞き取り調査を行った。後半は、第1委員会と合同で学校教育相談、カウンセリングに関わる研修会を外部から講師を招いて開催した。

（定例会活動）

- ・平成14年4月25日（木） 市ヶ谷商業
- ・平成14年5月2日（木） 科学技術
- ・平成14年5月23日（木） 松原
- ・平成14年6月27日（木） 市ヶ谷商業
- ・平成14年9月6日（金） 総技センター
- ・平成14年11月29日（金） 科学技術
- ・平成15年1月10日（金） 葛西工業
- ・平成15年1月20日（月） 松原

2. 研究協議大会での発表

「教員のカウンセリングマインド育成について」というテーマで、東京都における学校教育相談研究を教頭として教育現場にどう生かしていくかについての調査結果を発表した。

研修修了者に教頭に対しての要望事項を挙げてもらおうと、教育相談を落ち着いてできる部屋を確保して欲しい、研修会への計画的な教員派遣をはじめ外部研修に参加しやすい校内体制をつくってほしいことなどの回答があった。また、教員の中には、カウンセリングは受容・共感だけだと考える人が少なくないとの指摘があった。

教頭としては専修講座の修了者を核とした校内研修会を年間計画に位置づけることや、校務分掌等へ学校教育相談推進委員会等を設け、その委員長に専修講座の修了者を委嘱するなど、各学校の状況に応じた取り組みが求められていることについて発表し、意見交換を行った。

3. 外部講師による講演会

第1委員会と第2委員会が合同で定例会を4回実施した。そこでは、スクールカウンセラーや、教育相談に関わる専門家等を講師に招いた講演会形式の研修会が企画された。講師の選定

と依頼については、全面的に第1委員会のお世話になった。

今年度最後の講演会は、平成15年1月20日に松原高校で、午後6時半頃から行われた。「21世紀を生きていく子供たち」（支援の場としての学校の役割）と題して、私立京北学園白山高等学校長の川合 正先生を講師にお願いして実施された。

川合先生は保護者対象の研修会の様子を事例にして、教員が生徒へ言葉をかける際の大前提として①信頼関係があること ②一度に多く言わないこと ③相手の気持ちを大切にすることが重要である旨の話をされた。豊富な事例をあげた説明を伺い、改めてコミュニケーションの難しさを認識した。

また、組織運営について「エンパワーメント」の発想を取り入れることについてその必要性を説かれた。「学校は校長・教頭だけでは変わらない。」のであり、教員がお互いに納得の上で仕事を分担したり、助け合うことができるように支援することが管理職の役割であるとの話があった。

4. 今後の研究活動

平成15年度は、今年度の研究主題「教員のカウンセリングマインド育成について」を引き継いで、全国大会での発表に備えたい。

これまで第1委員会が主として生徒指導に関わる内容を、第2委員会は教科外活動に関わる内容を中心に独自の研究活動を展開してきたが、各委員会相互の連携を深め研究内容の充実を図るようにしていきたい。数年前までは毎月第一週の木曜日を月例会としていたが、教頭を取り巻く状況の変化もあり、これからは活動計画を立て直す必要がある。

研究テーマについては、各年度ごとに決定することになるが、これまでの活動を振り返ると「生徒指導をめぐる地域や保護者との連携」「校内における生徒指導体制の確立」「生徒指導に関わる校内研修の推進」「生徒指導としての進路指導の在り方」「学校教育相談の在り方」「部活動の在り方」などに関わる研究主題が繰り返し設定されている。これまでの研究成果を更に深めていく事は大切であるという視点に立ち、切り口を変えながら継続していきたい。

「生徒指導は、人間の尊厳という考え方に基づき一人一人の生徒を常に目的自身として扱う。それは、それぞれの内在的価値をもった個人の自己実現を助ける過程であり、人間性の最上の発達を目的とする。」と、文部省（現文部科学省）発行の生徒指導の手引きにある。このことに留意しながら研究を続けていきたいと思う。

5. おわりに

昨年度の活動報告においても、委員長が研究会活動が困難になってきていることを嘆いているが、今年度も状況は好転していない。

10年の長きにわたって、毎年研究部長が研究会への参加者が少ないことを嘆いている。積極的参加を次年度に期待しても、改善されることはむしろ状況は悪化しているという現実がある。この状況を打破する方策は果たしてあるのだろうか。

本委員会においても、1回の委員会活動に参加する教頭は3～5名である。生徒指導に関わる二つの委員会が統一テーマを設定したり、共同で委員会活動をしている背景には、参加者が少なすぎて活動が成立しないという重い現実が存在する。しかし、活動に参加することにより教頭としての視野が広がったり、有益な体験の機会を与えられることも事実である。

平成13年度の活動報告書を、生徒指導部会の部長は「生徒指導研究会では、これからも生徒に実態に即した今日的な課題を取り上げ、生徒指導を含めた学校運営に教頭がリーダーシップを発揮できるようにさらに活発な研究協議を重ねていくつもりである。教頭研究会の実績を今後も継続できるよう、少しでも多くの教頭がこの研究会に参加し、研究協議できる状況が一日も早く実現することを切に望みたい。」という言葉で結んでいる。

教頭が多忙な状況は、これから先も変わらないと思われる。そのような状況の中でも参加する価値があるような、教頭にとって魅力ある研究会活動を知恵を出し合って創っていくことが急務であろう。

委員長 鹿目憲文（科学技術）記

7. 会 員 異 動

退職者（11名）

平成14年3月31日発令

学区	校 名	氏 名	教 頭 会 役 名
2	新 宿 山 吹	渡 邊 正 久	管理研（2）
2	国 際	新 妻 紘	管理研（1）
3	西	英 勇	管理研（2）
3	練 馬 工	小 林 公	全国会計・総務・生徒研（2）
4	豊 島	清 水 巖	会計・総務・高校研（2）
5	足 立	矢 島 邦 男	副会長・総務・全国常任理事・高校研（1）
5	日 本 橋	石 橋 忠 司	生徒研（2）
6	小 岩	福 井 利 和	生徒研（1）
6	東	多 胡 静 男	生徒研（2）
6	第 三 商	相 川 鞆 彦	会長・総務・全国常任理事・生徒研（1）
9	小 平 南	百 濟 琢 也	会計監査・総務・高校研（1）

校長等栄進者（26名）

平成14年4月1日発令

学区	新 任 校	氏 名	前 任 校	教 頭 会 役 名
1	雪 谷	大 山 邦 夫	北 野	生徒研（1）
1	大 森	山 崎 廣 道	国 立	生徒研（2）
1	つばさ総合	萩 原 和 夫	烏 山 工	管理研（2）
1	赤 坂	渡 辺 洋	王 子 工	生徒研（2）
2	広 尾	江 見 悦 子	東 村 山	管理研（2）
2	市ヶ谷商	鈴 木 敏 夫	台 東 商	管理研（2）
2	世田谷工	鳥 居 雄 司	墨 田 工	高校研（2）
3	永 福	内 田 和 博	日 比 谷	高校研（2）
3	杉 並 工	閏 間 征 憲	世 田 谷 工	管理研（1）
4	北 野	丹 藤 浩	青 山	高校研（1）
4	赤 羽 商	田 中 幸 治	第 一 商	生徒研（2）
5	青 井	大 澤 紘 一	紅 葉 川	生徒研（1）
5	荒 川 工	清 水 武	本 所 工	生徒研（1）
6	小 岩	藤 松 雄 二	青 井	管理研（1）
6	篠 崎	納 谷 信	新 宿	高校研（2）
6	江東チャレンジ	小久保 正 己	久 留 米	高校研（2）
7	八王子高陵	山 下 貢	千 歳	高校研（1）
7	山 崎	平 山 順 一	調 布 南	全国理事・管理研部長・管理研（1）
7	町 田 工	瀧 上 文 雄	蔵 前 工	高校研（1）
8	武蔵村山東	浅 田 博	町 田	管理研（1）
8	福 生	宮 島 二 郎	文 京	生徒研（2）
9	久留米西	星 野 秀 文	武 蔵	生徒研（2）
9	田 無 工	能 智 功	砧 工	管理研（2）
10	南 野	長谷川 賢	拝 島	管理研（2）
10	府 中 工	工 藤 邦 敏	工 芸	高校研（1）
島嶼	神 津	土 肥 信 雄	晴 海 総 合	生徒研（1）

全日制間の転任（32名）

平成14年4月1日発令

学区	現任校	氏名	前任校	教頭会役名
1	赤坂	三木準一	上野忍岡	管理研（1）
2	第一商	吉田定良	赤羽商	高校研（1）
2	国際	小川達夫	一橋	高校研（1）
2	新宿山吹	多胡忠治	町田	生徒研（1）
3	田柄	佐藤勝	成瀬	高校研（2）
4	豊島	進藤周治	清瀬東	生徒研（2）
4	北野	堀江徹	小平	管理研（1）
4	池袋商	森田聖一	赤坂	管理研（1）
5	日本橋	亦木一彦	田柄	高校研（2）
5	忍岡	寶槻広	井草	生徒研（1）
5	足立	森山慎一	大山	高校研（1）
5	青井	伊藤實	本所	会計監査・管理研（1）
5	晴海総合	橋本勝	目黒	生徒研（1）
6	両国	竹内章	久留米西	高校研（2）
6	本所	栗原卯田子	小松川	高校研（1）
6	東	山際勉	湊江	高校研（2）
6	小松川	菅又勝雄	忍岡	生徒研（1）
6	紅葉川	中村澄隆	三鷹	生徒研（1）
6	第三商	篠田繁	池袋商	生徒研（1）
6	墨田工	小島透	足立工	生徒研（2）
7	町田	有馬利一	大島南	管理研（1）
7	八王子工	小林勝	松が谷	生徒研（2）
8	羽村	相良健二郎	瑞穂農芸	生徒研（2）
9	武蔵	宮崎高一	新島	生徒研（2）
9	久留米	針馬利行	練馬	全国理事・管理研部長・管理研（2）
9	小平	和田誠二	神代	高校研（2）
9	清瀬東	津田久枝	富士森	生徒研（2）
9	小平南	坂本文樹	昭和	全国常任理事・副会長・生徒研（2）
9	東村山西	山下敬緯子	大泉学園	高校研（2）
10	三鷹	三戸雄造	立川	生徒研（1）

定時制からの転任者（24名）

平成14年4月1日発令

学区	現任校	氏名	前任校	教頭会役名
1	一橋	竹村精治	墨田工	管理研（1）
1	日比谷	赤羽根行雄	羽田	高校研（2）
1	九段	五石秀治	都立大附	生徒研（2）
1	田園調布	金子勉	大島	管理研（2）
2	新宿	橋本徹	工芸	高校研（1）
2	青山	神津良雄	八丈	高校研（1）
3	武蔵丘	五十嵐和雄	久留米	高校研（1）
3	西	水谷禎憲	豊島	高校研（2）
3	井草	佐藤光一	深川	高校研（2）
3	練馬	渡邊嘉市	小石川	管理研（2）
3	大泉学園	長津美明	北野	高校研（2）
4	竹早	佐藤正博	新宿山吹	管理研（2）

学区	現任校	氏名	前任校	教頭会役名
4	文京	黒澤真木夫	五日市	生徒研(2)
4	大山	上原淳	センター	管理研(2)
4	赤羽商	赤石定治	上野	高校研(2)
4	工芸	大野和夫	北豊島工	生徒研(1)
4	王子工	大野弘	八王子工	生徒研(2)
5	淵江	岡昇	桜町	高校研(2)
5	上野忍岡	菊地芳男	第四商	管理研(1)
5	台東商	高田憲一	指導部	管理研(2)
6	小岩	柏倉均	芝商	生徒研(1)
7	富士森	篠田直樹	町田	管理研(2)
7	松が谷	上野敏雄	大崎	生徒研(2)
7	町田	井上隆	立川	管理研(1)
7	成瀬	小澤時男	文京	管理研(2)
8	立川	石崎康倫	八潮	生徒研(2)
8	昭和	仙田直人	第五商	生徒研(2)
8	拝島	清水孝二	小金井工	高校研(1)
9	久留米西	金城和貞	向丘	高校研(2)
9	東村山	星幸典	北多摩	管理研(2)
10	調布南	加藤修	第一商	管理研(1)
10	府中	石関元	四谷商	高校研(2)

新任(12名) 平成14年4月1日発令

学区	現任校	氏名	前任校	教頭会役名
2	目黒	宮地みち子	大島南	生徒研(1)
2	世田谷工	吉田順一	神津	管理研(1)
2	砧工	仁井田孝春	大崎	管理研(2)
2	世田谷単位制	菊地尚敬	南	高校研(2)
5	蔵前工	村田和雄	中野工	高校研(1)
5	足立工	今澤秀夫	小金井工	生徒研(2)
6	向島工	加藤秀次	北豊島工	管理研(2)
6	本所工	沖田義弘	南葛飾	生徒研(1)
8	瑞穂農芸	大山宗一	農産	生徒研(1)
島嶼	大島南	町田和郎	中野工	生徒研(1)
島嶼	三宅	飯島正	園芸	生徒研(2)
島嶼	新島	川原博義	大森東	高校研(2)
平成14年4月16日発令				
3	練馬工	飯田圭一郎	拝島	生徒研(2)

降格(4名) 平成14年4月1日発令

学区	現任校	氏名	前任校	備考
5	足立工業	国分丈夫	両国	教諭
7	野津田	三枝隆	九段	教諭
7	南多摩(定)	室伏哲郎	羽村	教諭
9	清瀬東	小暮正利	府中	教諭

編集後記

- 1 原稿をお寄せくださった先生方に厚くお礼申し上げます。年度末の多忙な時期と重り、さぞかし大変だったと思います。
- 2 清水先生と有馬事務室長の講話を、残念ながら紙面の関係で一部割愛せざるを得ませんでした。それでも、出席できなかった方のために、最大限詳しく掲載しました。ご一読ください。
- 3 教頭会の大きな役目の一つに、自主的な研修活動があります。それがこの会報の中でも多くの先生が指摘されているとおり、教頭職の多忙等さまざまな理由により厳しくなってきました。この中であって、その火を消さずどうしたらこの制度を確保し充実させていけるか、その具体的な方策の提案をお待しております。
- 4 創立40周年記念事業に際して、いろいろとご協力有難うございました。10年前の30周年と比較すると、出席教頭の数はかなり減っております。教頭が学校を留守にすることが難しい現実をみる思いです。それに伴い、教頭会の組織も現況に合わなくなって来ているふしがあります。たとえば、総務部会と幹事会の出席者の顔ぶれがあまり変わらないなど、組織自体の統合とスリム化が求められてきております。
- 5 教頭会費も来年度から自主経営推進予算の対象項目になり、教頭会にもマネジメント能力が要求される時代になってきたようです。教頭会活性化のため、教頭先生方の叢智を結集すべく、積極的提案をお願いします。

- ・ 教頭は、しばしば協頭・凶頭・狂頭・恐頭・脅頭・狭頭・嬌頭・挾頭などと揶揄して呼ばれることがある。一体あなたはどのタイプ？それともどれにもあたらない？

「沈黙は金」とばかりに必要なときにも黙して語らない教頭は困るが、いつも主役になりたがる教頭もいただけない。脇役に徹しながら存在感のある教頭こそ「脇頭」であり、それでこそその本質を全うしうると信じる。

しかし、ひとたび求められれば舞台の正面にも堂々と立ち、それでいて「大教頭」などとは勿論自称もしないし、他称されてもひたすら辞する「名教頭」の存在感を保持したいものだ。また、教頭会もかくありたい。

(事務局)



横山大観 五郷先生